

中部国際医療センター	文書名	文書番号	版数
臨床検査技術部	検査案内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-COL-0001	9

検査案内 (一次サンプル採取マニュアル)

文書番号：QT-COL-0001

第 9 版

(施行日：2025 年 4 月 10 日)

中部国際医療センター
臨床検査技術部

中部国際医療センター	文書名	文書番号	版数
臨床検査技術部	検査案内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-COL-0001	9

目次

1. 検査室の所在地.....	5
2. 臨床検査技術部連絡先および業務時間.....	6
3. 院内検査項目および容器一覧.....	7
3.1 生化学検査.....	7
3.1.1 項目一覧.....	7
3.1.2 容器一覧.....	11
3.2 血液学検査.....	12
3.2.1 項目一覧.....	12
3.2.2 容器一覧.....	14
3.3 内分泌学・腫瘍マーカー・免疫血清学検査.....	16
3.3.1 項目一覧.....	16
3.3.2 容器一覧.....	17
3.4 血液ガス検査.....	18
3.4.1 項目一覧.....	18
3.4.2 容器一覧.....	19
3.5 新生児関連検査.....	20
3.5.1 項目一覧.....	20
3.5.2 容器一覧.....	20
3.6 一般臨床検査.....	21
3.6.1 項目一覧.....	21
3.6.2 容器一覧.....	23
3.7 血液型・クームス・輸血検査.....	25
3.7.1 項目一覧.....	25
3.7.2 容器一覧.....	25
3.8 微生物検査.....	26
3.8.1 項目一覧.....	26
3.8.2 容器一覧（材料別）.....	28
3.9 病理検査.....	34

中部国際医療センター	文書名	文書番号	版数
臨床検査技術部	検査案内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-COL-0001	9

3.9.1	項目・容器一覧	34
3.10	遺伝子検査	37
3.10.1	項目一覧	37
3.10.2	臨床的判断値	38
3.10.3	容器一覧	38
3.10.4	解析ソフトウェアについて	39
3.11	生理検査	40
3.11.1	項目一覧	40
4.	検査依頼方法	44
4.1	検体検査、細菌検査依頼	44
4.2	病理検査依頼	44
4.3	遺伝子検査 (Rapid・Neo 検査) 依頼 ～ 検体提出	45
4.4	生理検査依頼	46
5.	検査採取ラベルの記載内容	47
6.	検体採取手順	48
6.1	外来採血および採尿	48
6.2	病棟採血および採尿	48
6.3.1	血液採取	48
6.3.2	尿採取	49
6.3.3	便採取	50
6.3.4	細菌検査材料採取	50
6.3.5	抗原・遺伝子検査材料	51
6.3.6	病理検査材料	52
7.	搬送手順	53
7.1	検体搬送手順	53
7.2	病理検体搬送手順	53
7.3	生理検査患者搬送手順	54
8.	検体受付および患者受付手順	55
8.1	受付場所	55
8.2	検体検査受入不可基準	55
8.3	微生物検査受入不可基準	56
8.4	病理検体受入不可基準	56

中部国際医療センター	文書名	文書番号	版数
臨床検査技術部	検査案内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-COL-0001	9

8.5 遺伝子検体受入不可基準	57
8.6 生理検査実施不可となる場合	58
9. 追加検査の依頼手順.....	60
10. 各種申請手続き（患者同意に関する事項）	62
11. アドバイスサービスの案内	62
12. パニック値報告手順.....	63
12.1 パニック値一覧	63
12.2 パニック値の報告	65
13. 個人情報の保護に関する検査室の方針.....	66
14. 検査室の苦情について	66
15. 関連文書	66
16. 添付資料	67

中部国際医療センター	文書名	文書番号	版数
臨床検査技術部	検査案内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-COL-0001	9

1. 検査室の所在地

社会医療法人厚生会 中部国際医療センター

臨床検査技術部、中部がんゲノム医療研究センター（がんゲノム検査室）、病理診断センター

〒505-8510 岐阜県美濃加茂市健康のまち1丁目1番地 TEL 0574-66-1100

《外注委託先》

一般財団法人総合保健センター 臨床検査事業部

〒505-0046 岐阜県美濃加茂市西町7-169

株式会社エスアールエル セントラル・MUQS ラボラトリー

〒197-0833 東京都あきる野市湊上50

株式会社 LSI メディエンス 中央総合ラボラトリー

〒101-8517 東京都板橋区志村3-30-1

株式会社 LSI メディエンス 病理・細胞診ラボラトリー

〒174-0051 東京都板橋区小豆沢4-25-11

日本赤十字社 東海北陸ブロック血液センター

〒489-8585 愛知県瀬戸市南山口町539-3

なお、外注委託先と直接ご連絡されたい場合は、検体受付（内線 4580）にお問い合わせ下さい。

中部国際医療センター	文書名	文書番号	版数
臨床検査技術部	検査案内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-COL-0001	9

2. 臨床検査技術部連絡先および業務時間

検査項目、検査結果、検査容器など、検査に関する問合せや要望・苦情は下記の担当部署に連絡して下さい。また、時間外、休日は時間外検査受付（7880）に連絡して下さい。

日常業務時間 8:30～17:00（採血・生理検査受付は 8:00 より開始）

時間外(夜間) 17:00～翌 8:30

検査	電話番号	場 所	業務内容
採血・採尿	内線 4500	1F 採血室	採血・採尿
検体受付 日常業務時間内	内線 4510	2F 検体検査室	検体受付
生化学・免疫血清検査 血液検査	内線 4510	2F 検体検査室	生化学検査、血糖検査、HbA1c、 CRP 検査、感染症検査、腫瘍マーカー、 甲状腺機能検査、外注検査など
			血算、血液像、骨髓像、血沈 凝固・線溶検査、血液ガス、髄液検査
一般検査	内線 4520	2F 検体検査室	尿一般検査、便検査
輸血検査	7880 内線 4560	2F 輸血管理室	血液型、輸血
微生物検査	細菌検査 内線 4580	2F 微生物検査室	細菌検査、抗酸菌検査、新型コロナウイルス検査、ウイルス検査
	新型コロナ関連 内線 4581		
病理検査	内線 8110	2F 病理検査室	細胞診、組織診断、解剖
生理検査	内線 4530	2F 生理機能検査室	心電図検査、負荷心電図 肺機能検査、脳波、超音波検査、 筋電図検査、聴覚検査
遺伝子検査	内線 8100	2F 中部がんゲノム 医療研究センター(が んゲノム検査室)	遺伝子検査
時間外検査受付 (17:00～翌 8:30) (休日 24 時間)	7880	2F 検体検査室	検体受付、保存 時間外・休日対応

中部国際医療センター	文書名	文書番号	版数
臨床検査技術部	検査案内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-COL-0001	9

3. 院内検査項目および容器一覧

採血量は複数項目依頼の場合、多少の変動があります。所要時間は、繁忙時間帯（平日 8:30～10:00）や時間外・休日では遅延する場合があります。

3.1 生化学検査

3.1.1 項目一覧

【酵素】

検査項目	採血量	検査材料	容器	検査法	基準範囲	単位	所用時間	備考
AST(GOT)	1.0mL	血清	01	JSCC 標準化対応法	13-30	U/L	45 分	**1
ALT(GPT)	1.0mL	血清	01	JSCC 標準化対応法	M:10-42 F:7-23	U/L	45 分	**1
LD(LDH)	1.0mL	血清	01	IFCC 標準化対応法	124-222	U/L	45 分	**1
CK(CPK)	1.0mL	血清	01	JSCC 標準化対応法	M:59-248 F:41-153	U/L	45 分	**1
CK-MB 定量	1.0mL	血清	01	電気化学発光免疫測定法	5.0 以下	ng/mL	50 分	**2
アミラーゼ	1.0mL	血清	01	JSCC 標準化対応法	44-132	U/L	45 分	**1
	0.5mL	部分尿	10	JSCC 標準化対応法	50-500	U/L	45 分	**3
P 型アミラーゼ	1.0mL	血清	01	免疫阻害法	15-50	U/L	45 分	*6 **2
ALP	1.0mL	血清	01	IFCC 標準化対応法	38-113	U/L	45 分	**1
γ-GTP	1.0mL	血清	01	JSCC 標準化対応法	M:13-64 F:9-32	U/L	45 分	**1
コリンエステラーゼ	1.0mL	血清	01	JSCC 標準化対応法	M:240-486 F:240-421	U/L	45 分	**1

【脂質・蛋白】

検査項目	採血量	検査材料	容器	検査法	基準範囲	単位	所用時間	備考
総コレステロール	1.0mL	血清	01	コレステロール酸化酵素 (COD-POD) 法	142-248	mg/dL	45 分	**1
HDL-コレステロール	1.0mL	血清	01	阻害による直接法	M:38-90 F:48-103	mg/dL	45 分	**1
LDL-コレステロール	1.0mL	血清	01	直接法	65-163	mg/dL	45 分	**1
中性脂肪 (TG)	1.0mL	血清	01	酵素比色法(遊離)	M:40-234	mg/dL	45 分	**1

中部国際医療センター	文書名	文書番号	版数
臨床検査技術部	検査案内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-COL-0001	9

				グリセロール消去)	F:30-117			
総タンパク	1.0mL	血清	01	ビュレット法	6.6-8.1	g/dL	45 分	**1
	0.5mL	部分尿	10	塩化ベンゼントリウム比濁法		mg/dL	45 分	
	0.5mL	蓄尿		塩化ベンゼントリウム比濁法	0.02-0.12	g/day	45 分	**3
アルブミン	1.0mL	血清	01	BCP 改良法	4.1-5.1	g/dL	45 分	**1
A/G 比		血清	01	計算法	1.32-2.23		45 分	*1 **1

【生体色素】

検査項目	採血量	検査材料	容器	検査法	基準範囲	単位	所用時間	備考
総ビリルビン	1.0mL	血清	01	パナジン酸酸化法	0.4-1.5	mg/dL	45 分	**1
直接ビリルビン	1.0mL	血清	01	パナジン酸酸化法	0-0.4	mg/dL	45 分	**2
間接ビリルビン		血清	01	計算法	0.8 以下	mg/dL	45 分	*2 **3

【低分子窒素化合物】

検査項目	採血量	検査材料	容器	検査法	基準範囲	単位	所用時間	備考
尿素窒素	1.0mL	血清	01	アンモニア消去、回避法	8-20	mg/dL	45 分	**1
	0.5mL	部分尿	10	アンモニア消去、回避法		mg/dL	45 分	
	0.5mL	蓄尿	10	アンモニア消去、回避法	6.5-13.0	g/day	45 分	**3
クレアチニン	1.0mL	血清	01	酵素法	M:0.65-1.07 F:0.46-0.79	mg/dL	45 分	**1
	0.5mL	部分尿	10	酵素法		mg/dL	45 分	
	0.5mL	蓄尿	10	酵素法	M: 0.7-2.2 F: 0.4-1.5	g/day	45 分	**5
推算 eGFR		血清	01	計算法	90 以上	ml/min/ 1.73 m ²	45 分	*3 **3
尿蛋白/CRE 比		部分尿	10	計算法	0.15 未満	g/g・CRE	45 分	**6**7
尿酸	1.0mL	血清	01	ウリカーゼ POD 法	M:3.7-7.8 F:2.6-5.5	mg/dL	45 分	**1
	0.5mL	部分尿	10	ウリカーゼ POD 法		mg/dL	45 分	
	0.5mL	蓄尿	10	ウリカーゼ POD 法	0.4-1.2	g/day	45 分	**6

中部国際医療センター	文書名	文書番号	版数
臨床検査技術部	検査案内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-COL-0001	9

アミノア	0.5mL	血漿	02	酵素マイクロ法	12-66	μg/dL	45 分	**3 *6
------	-------	----	----	---------	-------	-------	------	--------

【電解質・微量金属】

検査項目	採血量	検査材料	容器	検査法	基準範囲	単位	所用時間	備考
ナトリウム	1.0mL	血清	01	イオン選択電極法	138-145	mmol/L	45 分	**1
	0.5mL	部分尿	10	イオン選択電極法		mmol/L	45 分	
	0.5mL	蓄尿	10	イオン選択電極法	1.6-5.8	g/day	45 分	**5
カリウム	1.0mL	血清	01	イオン選択電極法	3.6-4.8	mmol/L	45 分	**1
	0.5mL	部分尿	10	イオン選択電極法		mmol/L	45 分	
	0.5mL	蓄尿	10	イオン選択電極法	1.0-3.9	g/day	45 分	**5
クロール	1.0mL	血清	01	イオン選択電極法	101-108	mmol/L	45 分	**1
	0.5mL	部分尿	10	イオン選択電極法		mmol/L	45 分	
	0.5mL	蓄尿	10	イオン選択電極法	2.5-8.9	g/day	45 分	**5
推定 1 日食塩摂取量		部分尿	10	計算法		g/day	45 分	**8
マグネシウム	1.0mL	血清	01	キリジブル法	1.8-2.4	mg/dL	45 分	**3
カルシウム	1.0mL	血清	01	酵素法	8.8-10.1	mg/dL	45 分	**1
	0.5mL	部分尿	10	酵素法		mg/dL	45 分	
	0.5mL	蓄尿	10	酵素法	0.1-0.3	g/day	45 分	**6
無機リン	1.0mL	血清	01	酵素法	2.7-4.6	mg/dL	45 分	**1
	0.5mL	部分尿	10	酵素法		mg/dL	45 分	
	0.5mL	蓄尿	10	酵素法	0.5-1.0	g/day	45 分	**5
鉄	1.0mL	血清	01	Nitroso-PSAP 法	40-188	μg/dL	45 分	**1

【糖・有機酸】

検査項目	採血量	検査材料	容器	検査法	基準範囲	単位	所用時間	備考
------	-----	------	----	-----	------	----	------	----

中部国際医療センター	文書名	文書番号	版数
臨床検査技術部	検査案内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-COL-0001	9

グルコース	0.5mL	全血	03	GOD 電極法	73-109	mg/dL	10 分	**1
	0.5mL	部分尿	10	ヘキサキナーゼ法	2.0-20	mg/dL	45 分	**3
	0.5mL	蓄尿	10	ヘキサキナーゼ法	0.030-0.130	g/day	45 分	**3
HbA1c	1.0mL	全血	03	HPLC 法	4.9-6.0	%	10 分	**1
Hb-F		全血	03	HPLC 法		%	10 分	*4
KL-6	1.0mL	血清	01	ラテックス凝集法	500 未満	U/mL	45 分	**2
総ケトン体	1.0mL	血清	01	酵素サイクリング法	28-120	μmol/L	45 分	**3

【薬物】

検査項目	採血量	検査材料	容器	検査法	基準範囲	単位	所用時間	備考
バンコマイシン	1.0mL	血清	01	KIMS 法	**4	μ g/mL	45 分	

【その他】

検査項目	採血量	検査材料	容器	検査法	基準範囲	単位	所用時間	備考
CRP(C 反応性蛋白)	1.0mL	血清	01	ラテックス比濁法	0-0.14	mg/dL	45 分	**1
浸透圧	1.0mL	血清	01	氷点降下法	270-290	mOsm/L	30 分	**3
	0.5mL	尿	10	氷点降下法	50-1300	mOsm/L	30 分	**3
CCr-24 時間値	1.0mL	血清	01	酵素法	70-130	mL/min	45 分	*5
	0.5mL	蓄尿	10	酵素法			45 分	**3
FIB4index		血清	01	計算法			45 分	**9
		全血	02					
OGTT	0.5mL	全血	03	GOD 電極法				

*1 : 総タンパク・アルブミン同時依頼時に報告します。

*2 : 総ビリルビン・直接ビリルビン同時依頼時に報告します。

*3 : クレアチン依頼時に報告します。

*4 : HbA1c 依頼時に報告します。

*5 : 血清・蓄尿の両材料を提出してください。「尿量記入用紙」を必ず提出して下さい。

*6 : 採取後直ちに提出して下さい。直ちに提出できない場合は、氷冷保存し、30 分以内に提出して下さい。

**1 : JCLLS 共用基準範囲引用

**2 : 試薬添付文書基準範囲引用

**3 : 臨床検査法提要改訂第 35 版基準範囲引用

**4 : 薬剤部にお問い合わせください。

**5:SRL 総合案内 2022-2023 引用

**6: 臨床検査データブック 2021-2022 医学書院基準範囲引用

**7 : 部分尿蛋白・部分尿クレアチン同時依頼時に報告します。

中部国際医療センター	文書名	文書番号	版数
臨床検査技術部	検査案内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-COL-0001	9

**8 : 部分尿ナトリウム・部分尿クレアチニン同時依頼時に報告します。

**9 : AST・ALT・血算（血小板）同時依頼時に報告します。

3.1.2 容器一覧

番号	容器	容器名称	検査材料	備考
01		ピンク分離剤入血清	血清	添加剤：凝固促進剤
02		紫：血算用採血管 ●紫血算用 NH3 紫：血液型専用	全血	添加剤：EDTA・2K 採取後速やかに、穏やかな転倒混和を 5 回程度行 って下さい。凝固した検体は測定不可です。
03		灰：血糖・A1c 用	全血	添加剤：フッ化ナトリウム・EDTA・2K 採取後速やかに、穏やかな転倒混和を 5 回程度行 って下さい。
10		尿沈サ管 尿沈サ管：生化学用 尿沈サ管：浸透圧用 尿沈サ管(薬物)	部分尿 蓄尿	

中部国際医療センター	文書名	文書番号	版数
臨床検査技術部	検査案内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-COL-0001	9

3.2 血液学検査

3.2.1 項目一覧

【末梢血球算定数・血液像】

検査項目	採血量	検査材料	容器	検査法	基準範囲	単位	所用時間	備考
白血球	1.0mL	全血	02	フローサイトメトリ法	3300-8600	/ μ L	15 分	*1 **1
赤血球				シーソー DC 検出法	M:435-555 F:386-492	$\times 10^9/\mu$ L		
ヘモグロビン				SLS-ヘモグロビン法	M:13.7-16.8 F:11.6-14.8	g/dL		
ヘマトクリット				パルス波高値検出法	M:40.7-50.1 F:35.1-44.4	%		
MCV				算出法	83.6-98.2	fL		
MCH				算出法	27.5-33.2	pg		
MCHC				算出法	31.7-35.3	%		
血小板				シーソー DC 検出法 フローサイトメトリ法	15.8-34.8	$\times 10^9/\mu$ L		*1 **2
RDW-SD				シーソー DC 検出法	50 以下	fL		
RDW-CV				シーソー DC 検出法	15 以下	%		
PDW				シーソー DC 検出法	M:10.6-16.8 F:9.9-17.2	fL		
MPV				シーソー DC 検出法	M:9.6-13.7 F:9.3-13.7	fL		
網状赤血球比率	1.0mL	全血	02	フローサイトメトリ法	0.2-2.6	%	10 分	**2
網状赤血球数					2.5-10	$\times 10^9/\mu$ L		
幼若血小板比率	1.0mL	全血	02	フローサイトメトリ法	1.1-6.1	%	10 分	**2
好中球	1.0mL	全血	02	フローサイトメトリ法	41-59	%	15 分	*2 **2
リンパ球					26-46.6	%		
単球					2.3-7.7	%		
好酸球					0.0-5.0	%		
好塩基球					0-1	%		
好中球数						/ μ L		
リンパ球数						/ μ L		
単球数						/ μ L		
好酸球数						/ μ L		
好塩基球数						/ μ L		

*1：依頼項目「血算」で全項目を報告します。

中部国際医療センター	文書名	文書番号	版数
臨床検査技術部	検査案内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-COL-0001	9

*2: 依頼項目「血液像」で全項目を報告します。フローサイトメリー法で分類できない場合は鏡検します。

**1: JCCLS 共用基準範囲引用

**2: 臨床検査データブック 2021-2022 医学書院基準範囲引用

【骨髓液・特殊染色】

検査項目	採血量	検査材料	容器	検査法	基準範囲	単位	所用時間	備考
骨髓像		骨髓液		メイ・グリュウワルト・ギムザ二重染色法	下記参照		2 日	*1 *2
ペルオキシダーゼ染色				DAB 法			2 日	*1
鉄染色				ヘムリンブルー			2 日	*1
NAP スコア				朝長法	200-320		2 日	*1
陽性率					71-98	%		**1

*1: 検体受付(内線 4510)まで連絡して下さい。時間外、休日は測定不可です。

*2: 有核細胞数・巨核球数・網赤血球比率も同時に報告します。

**1: 臨床検査データブック 2021-2022 株式会社 医学書院 引用

骨髓像 基準範囲 (引用: 臨床検査法提要改訂第 35 版 金原出版株式会社)

顆粒球系	
好中球系	
骨髓芽球	0.1~0.7%
前骨髓球	1.9~4.7%
骨髓球	8.5~16.9%
後骨髓球	7.1~24.7%
桿状核球	9.4~15.4%
分葉核球	3.8~11.0%
好酸球	1.1~5.2%
好塩基球	<0.1%
単球	0~0.6%
マクロファージ	0~0.8%
リンパ球	8.6~23.8%
形質細胞	0~3.5%
赤芽球系	
前赤芽球	0.1~1.1%
好塩基性赤芽球	0.4~2.4%
多染性赤芽球	13.1~30.1%
正染性赤芽球	0.3~3.7%

中部国際医療センター	文書名	文書番号	版数
臨床検査技術部	検査案内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-COL-0001	9

【出血凝固検査】

検査項目	採血量	検査材料	容器	検査法	基準範囲	単位	所用時間	備考
PT 比	2.7mL ^{*1}	血漿	05	凝固法	70-130	%	40 分	**1
PT-INR								
APTT	2.7mL ^{*1}	血漿	05	凝固法	24-34	秒	40 分	**1
フィブリノーゲン	2.7mL ^{*1}	血漿	05	凝固法	200-400	mg/dL	40 分	**1
ATⅢ	2.7mL ^{*1}	血漿	05	合成基質法	80-130	%	40 分	**1
FDP	2.7mL ^{*1}	血漿	05	免疫比濁法	5 以下	μg/mL	45 分	**1
D ダイマー	2.7mL ^{*1}	血漿	05	免疫比濁法	1.0 以下	μg/mL	45 分	**1
血沈 1 時間値	1.8mL ^{*2}	全血	06	透過光度測定法	M:2-10 F:3-15	mm	50 分	**2
出血時間				Duke 法	1-5	分	10 分	*3 **2
APTT クロスマキシマ [®] 試験				凝固法			150 分	*3

*1：専用容器(ヘパリン液 0.3mL 入り)に全血 2.7mL を正確に入れ、全量 3.0mL を良く転倒混和してください。

*2：採血量は専用容器の規定範囲内に入れて下さい。

*3：検体受付(内線 4510)まで連絡して下さい。時間外・休日は測定不可です。

**1：試薬添付文書基準範囲引用

**2：臨床検査法提要改訂第 35 版基準範囲引用

3.2.2 容器一覧

番号	容器	容器名称	検査材料	備考
02		紫：血算用採血管 ●紫血算用 NH3 紫：血液型専用	全血	添加剤：EDTA-2K 採取後速やかに、穏やかな転倒混和を 5 回程度行 って下さい。凝固した検体は測定不可です。
05		青：凝固検査用 青：凝固クロスマキシマ [®]	血漿	添加剤：3.13%ヘパリン 3.13%ヘパリン 0.3ml に血液 2.7ml 採血し、凝 固しないよう、採血後、速やかに転倒混和して下 さい。

中部国際医療センター	文書名	文書番号	版数
臨床検査技術部	検査案内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-COL-0001	9

06		黒：血沈専用	全血	添加剤：3.13%クエン酸ナトリウム 3.13%クエン酸ナトリウム 0.2ml に血液約 1.8ml（規定量範囲内）を採血し、凝固しないよう、採血後、速やかに転倒混和して下さい。
----	---	--------	----	---

中部国際医療センター	文書名	文書番号	版数
臨床検査技術部	検査案内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-COL-0001	9

3.3 内分泌学・腫瘍マーカー・免疫血清学検査

3.3.1 項目一覧

【内分泌学検査】

検査項目	採血量	検査材料	容器	検査法	基準範囲	単位	所用時間	備考
Free-T ³	1.0mL	血清	01	電気化学発光免疫測定法	2.3-4.0	pg/mL	50 分	**2
Free-T ⁴	1.0mL	血清	01	電気化学発光免疫測定法	0.9-1.7	ng/dL	50 分	**2
TSH	1.0mL	血清	01	電気化学発光免疫測定法	0.5-5.0	μIU/mL	50 分	**2
NT-proBNP	1.0mL	血清	01	電気化学発光免疫測定法	125 以下	pg/mL	50 分	**2
HCG 定量(血中)	1.0mL	血清	01	電気化学発光免疫測定法	2.7 以下	mIU/mL	50 分	**2
HCG 定性(尿中)	0.5mL	尿	10	イムノクロマトグラフィー法	男性および非 妊娠女性 (-)		10 分	**3

【腫瘍マーカー検査】

検査項目	採血量	検査材料	容器	検査法	基準範囲	単位	所用時間	備考
CEA	1.0mL	血清	01	電気化学発光免疫測定法	5.0 以下	ng/mL	50 分	**2
CA19-9	1.0mL	血清	01	電気化学発光免疫測定法	37 以下	U/mL	50 分	**2
AFP	1.0mL	血清	01	電気化学発光免疫測定法	10 以下	ng/mL	50 分	**1
PIVKA-II	1.0mL	血清	01	化学発光免疫測定法	40 未満	mAU/mL	80 分	**1
CA125	1.0mL	血清	01	電気化学発光免疫測定法	35 以下	U/mL	50 分	**2
CA15-3	1.0mL	血清	01	電気化学発光免疫測定法	25 以下	U/mL	50 分	**2
シフラ(CYFRA)	1.0mL	血清	01	電気化学発光免疫測定法	3.5 以下	ng/mL	50 分	**1
PSA	1.0mL	血清	01	電気化学発光免疫測定法	4.0 以下	ng/mL	50 分	**2

【免疫血清学検査】

検査項目	採血量	検査材料	容器	検査法	基準範囲	単位	所用時間	備考
PCT 定量	1.0mL	血清	01	電気化学発光免疫測定法	陰性<0.5	ng/mL	50 分	**2
心筋トロポニンT(定量)	1.0mL	血清	01	電気化学発光免疫測定法	0.1 カットオフ値	ng/mL	18 分	**2
フィブリノゲン	1.0mL	血清	01	電気化学発光免疫測定法	M:39.90- 465 F:6.23- 138	ng/mL	50 分	**2

【ウイルス感染症検査】

検査項目	採血量	検査材料	容器	検査法	基準範囲	単位	所用時間	備考
HBs 抗原定性	1.0mL	血清	01	電気化学発光免疫測定法	定性 : (-) COI : 1.0 未満	COI	50 分	**1
HBs 抗原定量	1.0mL	血清	01	電気化学発光免疫測定法		IU/mL	50 分	**1
HBs 抗体定性	1.0mL	血清	01	電気化学発光免疫測定法	定性 : (-) 濃度 : 10	IU/L	50 分	**1

中部国際医療センター	文書名	文書番号	版数
臨床検査技術部	検査案内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-COL-0001	9

					未満			
HCV抗体	1.0mL	血清	01	電気化学発光免疫測定法	定性：(-) COI : 1.0 未満	COI	50 分	**1
HIV抗弱抗体	1.0mL	血清	01	電気化学発光免疫測定法	定性：(-) COI : 1.0 未満	COI	50 分	**1
RPR	1.0mL	血清	01	ラテックス比濁法	定性：(-) R.U. : 1.0 未満	R.U.	45 分	**1
TP抗体	1.0mL	血清	01	ラテックス比濁法	定性：(-) COI : 1.0 未満	COI	45 分	**1

**1：試薬添付文書基準範囲引用

**2：臨床検査法提要改訂第 35 版基準範囲引用

**3：データブック 2021-2022 引用

3.3.2 容器一覧

番号	容器	容器名称	検査材料	備考
01		ピップ分離剤入血清	血清	添加剤：凝固促進剤
10		尿沈サ管 尿沈サ管：生化学用 尿沈サ管：浸透圧用 尿沈サ管(薬物)	部分尿 蓄尿	

中部国際医療センター	文書名	文書番号	版数
臨床検査技術部	検査案内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-COL-0001	9

3.4 血液ガス検査

3.4.1 項目一覧

検査項目	採血量	検査材料	容器	検査法	基準範囲	単位	所用時間	備考
pH	1.0mL	全血	08	電位差法	7.35-7.45		3分	*1 **1 *2 *3
pCO ₂				電位差法	M:35-48 F:32-45	mmHg		
pO ₂				アンペロメトリック測定	83-108	mmHg		
Na ⁺				電位差法	136-145	mmol/L		
K ⁺				電位差法	M:3.5-4.5 F:3.4-4.4	mmol/L		
Cl ⁻				電位差法	98-107	mmol/L		
Ca ⁺⁺				電位差法	1.15-1.33	mmol/L		
Glucose				アンペロメトリック測定	65-95	mg/dL		
Lactate				アンペロメトリック測定	a:3-7 v:5-12	mg/dL		
Crea				アンペロメトリック測定	M:0.62-1.10 F:0.45-0.75	mg/dL		
AaDpO ₂				計算法		mmHg		
BE				計算法	M:-3.2-1.8 F:-2.3-2.7	mmol/L		
HCO ₃ ⁻				計算法	M:22.2-28.3 F:21.2-27	mmol/L		
tCO ₂ (B)				計算法		mmol/L		
tO ₂				計算法	M:18.8-22.2 F:15.9-19.9	mL/dL		
tHb				吸光分光法	M:13.5-17.5 F:11.4-15.5	g/dL		
Hct				計算法		%		
sO ₂				吸光分光法	94-98	%		
O ₂ Hb				吸光分光法	90-95	%		
COHb				吸光分光法	0.5-1.5	%		
MetHb				吸光分光法	0.04-1.52	%		
HHb				吸光分光法		%		
Agap				計算法	8-16	mmol/L		

*1：依頼項目「動脈血ガス」または「静脈血ガス」または「臍帯血ガス」で全項目を報告します。

**1：機器添付文書基準範囲引用

中部国際医療センター	文書名	文書番号	版数
臨床検査技術部	検査案内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-COL-0001	9

*2 : シリンジで採取した場合は、採取後 30 分以内に提出してください。キャピラリー管の場合は、採取後 10 分以内に提出してください。

*3 : 測定後の検査追加は不可です。

3.4.2 容器一覧

番号	容器	容器名称	検査材料	備考
08		血液ガス専用	全血	添加剤 : 60IU 電解質バランスヘパリン
30				

中部国際医療センター	文書名	文書番号	版数
臨床検査技術部	検査案内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-COL-0001	9

3.5 新生児関連検査

3.5.1 項目一覧

検査項目	採血量	検査材料	容器	検査法	基準範囲	単位	所用時間	備考
新生児 T-B	0.5mL	血漿	09	酵素法		mg/dL	15 分	
新生児 U-B	0.5mL	血漿	09	酵素法	1.0 未満	μg/dL	15 分	**1
新生児 CRP	0.5mL	血漿	09	ラテックス比濁法	0-0.5	mg/dL	15 分	**1
新生児ヘマトクリット	0.5mL	全血	20	マイクロヘマトクリット法		%	10 分	

**1：試薬添付文書基準範囲引用

3.5.2 容器一覧

番号	容器	容器名称	検査材料	備考
09		マイクロテイナー：緑	血漿	添加剤：ヘパリンリチウム 採血量が十分採取できる場合は「ピンク分離剤入血清」で提出しても構いません。
20		ヘマトクリット管	全血	採取後は片側をパテで埋めて下さい。

中部国際医療センター	文書名	文書番号	版数
臨床検査技術部	検査案内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-COL-0001	9

3.6 一般臨床検査

3.6.1 項目一覧

【尿検査】

検査項目	検体量	検査材料	容器	検査法	基準範囲	単位	所用時間	備考
色調	2.0mL	尿	10	透過光測定法	淡黄色～濃褐色		5 分	*1 *3 **1
混濁				散乱光測定法	(-)			
比重				反射型屈折率測定法	1.006-1.030			
pH				尿試験紙法	5.0-8.0			
タンパク					(-)			
糖					(-)			
ケトン体					(-)			
潜血(定性)					(-)			
ウロビリノーゲン					NORMAL			
ビリルビン					(-)			
亜硝酸塩					(-)			
白血球(定性)					(-)			
赤血球	10.0mL	尿	10	フローサイトメトリ法	4/HF 以下		15 分	*2 *4 **2
白血球					4/HF 以下			
細菌					(-)			
真菌					(-)			
肺炎球菌抗原	1.0mL	尿	10	免疫クロマトグラフィー法	(-)		20 分	**3
レジオネラ抗原	1.0mL	尿	10	免疫クロマトグラフィー法	(-)		20 分	**3
シグニファイ	1.0mL	尿	10	金コロイド粒子免疫法	(-)		20 分	**3

*1：依頼項目「尿定性」で全項目を報告します。

*2：依頼項目「尿沈渣」で全項目を報告します。フローサイトメトリ法で分類できない場合は鏡検します。

*3：採取後、1 時間以内に提出してください。

*4：採取後、4 時間以内に提出してください。

**1 尿検査 その知識と病態の考え方 第 1 版基準範囲引用

**2：データブック 2021-2022 引用

**3：試薬添付文書基準範囲引用

【糞便検査】

検査項目	検体量	検査材料	容器	検査法	基準範囲	所用時間	備考
ノロウイルス抗原	小指頭大	便	11・13	免疫クロマトグラフィー法	(-)	15 分	**1
便潜血		便	12	免疫比濁法	(-)	10 分	**1

中部国際医療センター	文書名	文書番号	版数
臨床検査技術部	検査案内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-COL-0001	9

ロカ抗原		便	13	免疫クロマトグラフィー法	(-)	10 分	**1
アデノ抗原(便)		便	13	免疫クロマトグラフィー法	(-)	10 分	**1

**1：試薬添付文書基準範囲引用

【その他材料の検査】

検査項目	検体量	検査材料	容器	検査法	基準範囲	単位	所用時間	備考
クラリア抗原定性	10mL	男性:初尿	10	免疫クロマトグラフィー法	(-)		15 分	**1
		女性:膣分泌物	17					
マンモ CEA	3 μ L	乳頭分泌液	18	免疫クロマトグラフィー法	400 未満	ng/mL		*1 **1

*1：時間外・休日は測定不可です。

**1：試薬添付文書基準範囲引用

【髄液検査】

検査項目	検体量	検査材料	容器	検査法	基準範囲	単位	所用時間	備考
色調	2.0mL	髄液	10	目視法	無色透明		10 分	*1 **1 *2
混濁					(-)			
血性					(-)			
細胞数				用手法	乳児以降:5 以下	/ μ L		
単核球						%		
多核球						%		
糖(定量)				酵素法	50-80	mg/dL	10 分	
蛋白(定量)				比濁法	15-45	mg/dL	30 分	

*1：依頼項目「髄液一般」で全項目を報告します。

**1：髄液検査技術教本丸善出版基準範囲引用

*2：採取後、1 時間以内に提出してください。

【CAPD 排液検査】

検査項目	検体量	検査材料	容器	検査法	基準範囲	単位	所用時間	備考
色調	1.0mL	CAPD 排液	10	目視法			10 分	*1
混濁								
血性								
細胞数				用手法		/ μ L		
単核球						%		
多核球						%		

*1：依頼項目「CAPD 排液検査(細胞数)」で全項目を報告します。

中部国際医療センター	文書名	文書番号	版数
臨床検査技術部	検査案内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-COL-0001	9

【精液検査】

検査項目	検体量	検査材料	容器	検査法	基準範囲	単位	所用時間	備考
精液量		精液	10	目視法	2.0 以上	mL	60 分	*1
精子数				用手法	40 以上	×10 ⁶ /mL		*2
運動率				鏡検	50 以上	%		*3
正常形態率					15 以上	%		**1
白血球					1 未満	×10 ⁶ /mL		

*1：依頼項目「精液一般」で全項目を報告します。

*2：時間外・休日は測定不可です。

*3：採取後、1 時間以内に提出してください。

**1：一般検査技術教本丸善出版基準範囲引用

3.6.2 容器一覧

番号	容器	容器名称	検査材料	備考
10		尿沈サ管 尿沈サ管：生化学用 尿沈サ管：浸透圧用 尿沈サ管(薬物)	部分尿 蓄尿	
11		U：糞便容器 ノロウイルス専用容器	便	専用容器付属の匙 1 盛り程度、採取して下さい。
12		便潜容器	便	
13		ロタ・アデノ専用綿棒 ノロウイルス専用容器	便	直腸便を採取する場合に用いる。

中部国際医療センター	文書名	文書番号	版数
臨床検査技術部	検査案内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-COL-0001	9

17		クラシア専用キット	腔分泌物	
18		マンモ CEA 専用キット	乳頭分泌物	

中部国際医療センター	文書名	文書番号	版数
臨床検査技術部	検査案内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-COL-0001	9

3.7 血液型・クームス・輸血検査

3.7.1 項目一覧

検査項目	採血量	検査材料	容器	検査法	基準範囲	所用時間	備考
血液型	1.0mL	全血	02	カラム凝集法 試験管法	基準値なし	25 分	
不規則抗体スクリーニング*	4.0mL	全血	07	カラム凝集法 試験管法	基準値なし	45 分	
間接クームス	2.0mL	全血	07	カラム凝集法 試験管法	陰性	45 分	
直接クームス	1.0mL	全血	07	カラム凝集法 試験管法	陰性	45 分	

3.7.2 容器一覧

番号	容器	容器名称	検査材料	備考
02		紫：血算用採血管 ●紫血算用 NH3 紫：血液型専用	全血	添加剤：EDTA-2K 採取後速やかに、穏やかな転倒混和を 5 回程度行 って下さい。凝固した検体は測定不可です。
07		輸血用採血管	全血	添加剤：EDTA-2K 採取後速やかに、穏やかな転倒混和を 5 回程度行 って下さい。凝固した検体は測定不可です。

中部国際医療センター	文書名	文書番号	版数
臨床検査技術部	検査案内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-COL-0001	9

3.8 微生物検査

3.8.1 項目一覧

【細菌検査】

検査項目	検体量	検査材料	採取容器	検査方法	基準範囲	所要時間	備考
一般細菌検査	検査材料によるため 3.8.2 参照	全検体可能 (血液除く)	3.8.2 参照 (検査材料別)				
塗抹 (グラム染色)				グラム染色	該当なし	16 時までに提出であれば当日中検査	至急の場合は要電話連絡、その場合 30 分
培養同定				質量分析法	該当なし	1～2 日 ただし、増菌培養する場合は 7 日要する また、糸状菌は 1 ヶ月、レジオネラ菌百日咳菌は 7～10 日	目的菌が糸状菌 (アスペルギルス含む)、レジオネラ菌、百日咳菌の場合は、外注委託 (SRL) となります。
薬剤感受性				微量液体希釈法	該当なし	2～4 日	
嫌気培養				嫌気性培養	該当なし	陰性報告まで 7 日	
血液培養	3.8.2 参照	血液	20 (成人の場合) 21 (小児の場合)	自動機器による検出	陰性 *1	陰性報告まで 5 日 陽性になった段階で 随時報告	
Nugent スコア	適量	腔分泌物	23	グラム染色	0～3 *1	16 時までに提出であれば当日中検査	至急の場合は要電話連絡、その場合 30 分
CD チェック	糞便容器内のさじ 1 すくい分	便	24	イムノクロマト法、 PCR 法	CD トキシン陰性 CD トキシン B 遺伝子陰性 *2	16 時までに提出であれば当日中検査	至急の場合は要電話連絡、その場合 30 分 CD 抗原陽性かつ CD トキシン陰性の場合、 CD トキシン B 遺伝子検査をオーダなしで行います
赤痢アメーバ鏡検	1mL 以上	便または肝臓瘍	24	直接塗抹法	陰性 *1	30 分 ただし、要電話連絡	1 時間以上経過した検体の場合、検出感度が著しく低下します
アカントアメーバ鏡検	1mL 以上	角膜擦過物	22	直接塗抹法	陰性 *1	30 分 ただし、要電話連絡	1 時間以上経過した検体の場合、検出感度が著しく低下します
抗酸菌検査	検査材料によるため 3.8.2 参照	全検体可能	3.8.2 参照 (検査材料別)				
塗抹 (抗酸菌染色)				チールネルゼン染色	陰性 *1	16 時までに提出であれば当日中検査	至急の場合は要電話連絡、その場合 90 分

中部国際医療センター	文書名	文書番号	版数
臨床検査技術部	検査案内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-COL-0001	9

結核菌群核 酸同定 (PCR)		下気道検 体および 胃液		PCR 法	陰性 *1	16 時まで提出で あれば当日中検査	至急の場合は要電話連 絡、その場合 130 分
結核菌群核 酸同定 (TRC)		上記検体 以外		TRC 法	陰性 *1	2～3 日	外注委託 (SRL)
MAC 核酸同 定 (TRC)				TRC 法	陰性 *1	2～3 日	外注委託 (SRL)
抗酸菌培養				小川培養	陰性 *1	陰性報告まで 8 週	外注委託 (GHL)
抗酸菌同定				質量分析	該当なし	培養陽性後 3～5 日	外注委託 (SRL) 抗酸菌培養陽性の場合 のみ可能
薬剤感受性				微量液体希 釈法	該当なし	培養陽性後 4 週～8 週	外注委託 (SRL) 抗酸菌培養陽性の場合 のみ可能

【抗原・遺伝子検査】

検査項目	検体量	検査材料	採取容器	検査方法	基準範囲	所要時間	備考
新型コロナウイルス+イン フルエンザウイルス同時 抗原定性	適量	鼻咽頭ぬぐ い液	25	免疫クロマト グラフィー法	陰性 *3	20 分	唾液不可
新型コロナウイルス抗 原定性	適量	鼻咽頭ぬぐ い液	25	免疫クロマト グラフィー法	陰性 *3	20 分	唾液不可
インフルエンザウイルス 抗原定性	適量	鼻咽頭ぬぐ い液	25	免疫クロマト グラフィー法	陰性 *3	15 分	
RS ウイルス抗原定 性	適量	鼻咽頭ぬぐ い液	25	免疫クロマト グラフィー法	陰性 *3	15 分	
マイコプラズマ抗原 定性	適量	咽頭ぬぐい 液	26	免疫クロマト グラフィー法	陰性 *3	20 分	
咽頭・結膜アデノ ウイルス抗原定性	適量	咽頭ぬぐい 液 角結膜ぬぐ い液	26	免疫クロマト グラフィー法	陰性 *3	15 分	
A 群溶連菌抗 原定性	適量	咽頭ぬぐい 液	26	免疫クロマト グラフィー法	陰性 *3	12 分	
新型コロナウイルス抗 原定量 (ルミパ ス)	適量	鼻咽頭ぬぐ い液	25	化学発光酵素 免疫測定法	1.00pg/m L 未満 *3	50 分	唾液不可 朝 7 時～10 時の病棟検体 は検査が遅延することが あります。至急の場合は、 検体に赤字で「至急」と記載 して下さい。

中部国際医療センター	文書名	文書番号	版数
臨床検査技術部	検査案内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-COL-0001	9

インフルエンザウイルス 抗原定量 (ルミ パルス)	適量	鼻咽頭ぬぐ い液	25	化学発光酵素 免疫測定法	1.0 C.O.I 未満 *3	50 分	陽性となった場合、インフル ンザ A、B において判別す ることはできません。
新型コロナウイルス遺 伝子(IDNOW)	適量	鼻 咽 頭 ぬ ぐい液	25	NEAR 法	陰性 *4	13 分	唾液不可
新型コロナウイルス遺 伝子 (Genexpert)	適量 唾液の場 合は 2mL 以上	鼻 咽 頭 ぬ ぐい液 ま たは唾液	27 (鼻咽頭 ぬぐい液) 28 (唾液)	PCR 法	陰性 (CT 値 40.0 未満) *5	60 分	唾液の場合:痰や粘性の多 い場合は検査不可、採取前 10 分以内に飲食、飲水、歯 磨き、うがいは行わない CT 値の報告については参 考値となります。
新型コロナウイルスマ ルチ遺伝子 (FilmArray)	適量	鼻 咽 頭 ぬ ぐい液	27	PCR 法	陰性 *4	50 分	唾液不可
マイコプラズマ PCR(SmartG ene)	適量	咽頭ぬぐい 液	26	PCR 方	陰性 *3	50 分	

*1 : 臨床微生物検査ハンドブック 三輪書店発行 引用

*2 : Clostridioides difficile 感染症診療ガイドライン 引用

*3 各試薬添付文書 引用

*4 新型コロナウイルス感染症 病原体検査の指針 引用

*5 SARS-CoV-2 遺伝子検出・ウイルス分離マニュアル Ver1.1 引用

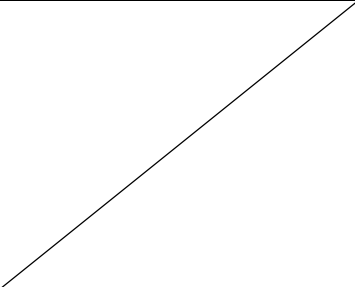
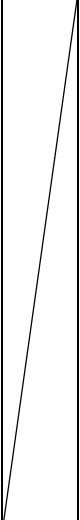
3.8.2 容器一覧 (材料別)

番号	容器	容器名称	検査材料	検体必要量	備考
		滅菌スピッツ 採痰容器 50mL チューブ	痰 肺胞洗浄液 気管支洗浄液 胃液	一般細菌検査 1mL 以上 抗酸菌検査 2mL 以上	喀痰は採痰容器で提出して下さ い。 唾液様検体は検査不可 採取後 1 時間以内に提出して下さ い。提出できない場合は冷蔵で保 存して下さい。

中部国際医療センター	文書名	文書番号	版数
臨床検査技術部	検査案内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-COL-0001	9

					
20	 	好気ボトル (青キャップ) 嫌気ボトル (紫キャップ)	血液 (成人)	好気ボトル、嫌気ボトルに各 8～10mL	採取穿刺箇所をよく消毒して下さい。 好気ボトル、嫌気ボトルを別部位で各 2 セット採取推奨。 採取部位を採取ラベルまたはボトルに必ず記載して下さい。 採取後速やかに提出して下さい。 提出が困難な場合、冷蔵保存はしないで下さい。
21		小児用ボトル	血液 (小児)	1～3mL	採取穿刺箇所をよく消毒して下さい。嫌気性菌が疑われる場合は嫌気ボトル (成人用) を提出して下さい。 採取部位を採取ラベルまたはボトルに必ず記載して下さい。 採取後速やかに提出して下さい。 提出が困難な場合、冷蔵保存はしないで下さい。
05		青:凝固検査用	血漿	添加剤: 3.13%クエン酸ナトリウム 3.13%クエン酸ナトリウム 0.3ml に血液 2.7ml 採血し、凝固しないよう、採血後、速やかに転倒混和して下さい。 血液の抗酸菌検査 8mL	

中部国際医療センター	文書名	文書番号	版数
臨床検査技術部	検査案内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-COL-0001	9

22		シードスワブ 2 号 滅菌スピッツ 嫌気ポーター	膿・分泌物 (眼、耳・鼻 漏、皮膚、創 部、潰瘍部)	適量	膿の場合、採取可能であれば滅菌 スピッツで採取して下さい。 嫌気ポーターは冷蔵で保存して下 さい。 嫌気性培養をオーダーする場合は嫌 気ポーターで採取して提出して下 さい。スワブで採取した検体は、 嫌気性培養は行いません。 スワブでの検体採取は、皮膚常在 菌の混入する可能性があります。 採取後 1 時間以内に提出して下さ い。提出できない場合は冷蔵で保 存して下さい。
23		シードスワブ 1 号	腔分泌物	適量	
		シードスワブ 1 号 50mL チューブ	便	母指頭大 (3～5g)	腸洗浄液を提出する際は 50mL チ ューブで提出して下さい。 採取後 1 時間以内に提出して下さ い。提出できない場合は冷蔵で保 存して下さい。

中部国際医療センター	文書名	文書番号	版数
臨床検査技術部	検査案内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-COL-0001	9

24		糞便容器 50mL チューブ	便 (CDI 疑い) 便 (赤痢アメーバ)	糞便容器内のさじ 1 すくい分	シードスワブ 1 号での提出は検査不可となります。 腸洗浄液を提出する際は 50mL チューブで提出して下さい。 赤痢アメーバを疑う場合は、採取後速やかに提出して下さい。
		滅菌スピッツ	尿	一般細菌検査 1mL 以上 抗酸菌検査 10mL 以上	自然尿検査する場合は、非滅菌の尿スピッツで提出でも可 採取後 1 時間以内に提出して下さい。提出できない場合は冷蔵で保存して下さい。ただし、淋菌を疑う場合は冷蔵保存はしないで下さい。
		滅菌スピッツ 嫌気ポーター	穿刺液 (髄液、胸水、腹水、関節液、膿瘍、嚢胞内容など)	一般細菌検査 1mL 以上 目的菌が真菌の場合 10mL 以上 抗酸菌検査 5mL 以上	嫌気ポーターは冷蔵で保存して下さい。 嫌気性培養をオーダする場合は嫌気ポータで採取して提出して下さい。嫌気ポーターで採取していない検体の嫌気性培養は参考値となります。 採取後 1 時間以内に提出して下さい。提出できない場合は冷蔵で保存して下さい。ただし、髄液は、採取後搬送にかかる場合は、常温で保存してください。
		滅菌スピッツ 嫌気ポーター	胆汁	一般細菌検査 1mL 以上 目的菌が真菌の場合 10mL 以上 抗酸菌検査 5mL 以上	嫌気ポーターは冷蔵で保存して下さい。 嫌気性培養をオーダする場合は嫌気ポータで採取して提出して下さい。嫌気ポーターで採取していない検体の嫌気性培養は参考値となります。

中部国際医療センター	文書名	文書番号	版数
臨床検査技術部	検査案内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-COL-0001	9

					採取後 1 時間以内に提出して下さい。提出できない場合は冷蔵で保存して下さい。
	 	滅菌スピッツ 50mL チューブ	CAPD 排液	5～10mL	採取後 1 時間以内に提出して下さい。提出できない場合は冷蔵で保存して下さい。
		滅菌スピッツ	カテーテル 排液チューブ	先端部分 5～6cm	カテーテルが全部浸る程度滅菌生食を加えて提出して下さい。生食の入っていない場合は参考値となります。 採取後 1 時間以内に提出して下さい。提出できない場合は冷蔵で保存して下さい。
		滅菌スピッツ	骨、組織などの生検材料	採取可能な量	採取後 1 時間以内に提出して下さい。提出できない場合は冷蔵で保存して下さい。
25		鼻腔用滅菌綿棒 輸送用綿棒チューブ	鼻咽頭ぬぐい液	適量	血液が混じった検体は参考値となります。

中部国際医療センター	文書名	文書番号	版数
臨床検査技術部	検査案内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-COL-0001	9

					
26	  	咽頭ぬぐい用滅菌ス ワブ 輸送用綿棒チューブ	咽頭ぬぐい液	適量	
27	 	鼻腔用滅菌綿棒 ウイルス輸送液	鼻咽頭ぬぐい 液	適量	ウイルス輸送液は常温（25℃以下）で保存可能です。検体採取後、搬送に時間のかかる場合は、保冷材などと一緒に輸送して下さい。
28		喀痰容器	唾液	1～2mL（1 番底の三角の部分の上まで必要）	検体が規定量以下の場合は検査不可となります。 痰や粘性の多い場合は検査不可、採取前 10 分以内に飲食、飲水、歯磨き、うがいは行わないで下さい。

中部国際医療センター	文書名	文書番号	版数
臨床検査技術部	検査案内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-COL-0001	9

3.9 病理検査

3.9.1 項目・容器一覧

(1) 組織診断検査

検査項目	提出材料	容器	保存	所要日数*1	検査方法
組織診断検査	10%中性緩衝 ホルマリン 固定組織		15～30℃	生検検体 14日 手術検体 14日	ヘマトキシリン・エオジン染色 特殊染色 免疫染色 病理専門医による検鏡診断

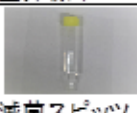
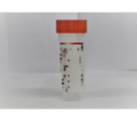
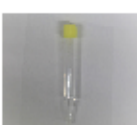
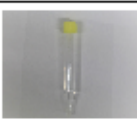
*1：脱脂処理や脱灰処理が必要な症例に関してはさらに日数を要する場合がある。

(2) 術中迅速診断

検査項目	提出材料	容器	保存	所要時間	検査方法
術中迅速診断	未固定組織	生理食塩水で湿らせたカーゼを入れたプラスチックシャーレ	15～30℃ 採取後、直ちに病理検査室へ搬送してください	30分～60分	ヘマトキシリン・エオジン染色 (凍結切片) 術中免疫染色 (抗 GFAP 抗体、抗 CD45 抗体、抗 AE1/AE3 抗体) 病理専門医による検鏡診断

中部国際医療センター	文書名	文書番号	版数
臨床検査技術部	検査案内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-COL-0001	9

(3) 細胞診断検査

検査項目	提出材料	容器	固定液	保存	所要日数	検査方法
細胞診検査	婦人科材料 (子宮頸腫部・内膜・ 腫断端・外陰部など)	塗抹標本	パパンニコロウ 固定液(95% エタノール)	15～30℃	14日	パパンニコロウ染色 細胞検査士によるスク リーニング 細胞専門医による検鏡 診断
	気管支擦過材料	塗抹標本	パパンニコロウ 固定液(95% エタノール)			
	気管支・肺胞洗浄液	 滅菌スピッツ				
	喀痰	 採痰容器				
	蓄痰	 専用容器	サコマノ液 (50%エタノール・2%カーボ ワックス混合 液)			
	自然尿	 採尿コップ				
	体腔液 (胸水・腹水など)	 抗凝固剤入り 滅菌スピッツ		2～8℃		パパンニコロウ染色 メイギムザ染色 PAS染色 アルシアンブルー染色 細胞検査士によるスク リーニング 細胞専門医による検鏡 診断
	胆汁・膵液など	 滅菌スピッツ				
穿刺吸引材料 (甲状腺・唾液腺・リン パ節・脾臓など)	病理検査室にご連絡ください					細胞専門医による検鏡 診断

備考：細胞診断検査の内、気管支・肺胞洗浄液、喀痰、蓄痰、自然尿、体腔液は病理検査室への搬送に時間がかかる場合（休日など）、冷蔵庫内（2～8℃）で保管する。胆汁・膵液など消化酵素の多い検体に関しては、搬送は冷蔵状態（保冷剤などを使用）で行ってください。

中部国際医療センター	文書名	文書番号	版数
臨床検査技術部	検査案内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-COL-0001	9

【外部委託検査】

検査項目	提出材料	容器	保存	依頼書	所要日数	備考
悪性リンパ腫 総合解析検査 ML-NET	未固定リンパ 節 10×10×5mm 程度	生理食塩水 で湿らせた ガーゼ入り シャーレ	15～30℃ 採取後、直ち に病理検査 室へ搬送して ください	SRL悪性リン パ腫総合解 析検査依頼 用紙	3～4週	当院での病理診断をご希望の 場合は病理組織診断依頼書 も同時に提出してください

その他外部委託項目においては外部委託検査案内参照

中部国際医療センター	文書名	文書番号	版数
臨床検査技術部	検査案内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-COL-0001	9

3.10 遺伝子検査

3.10.1 項目一覧

Rapid-Neo 検査では以下のがん関連 144 遺伝子の異常を検出することができます。ただし、遺伝子変異 (SNV、InDel) は「variant depth $\geq$ 10 かつ遺伝子変異を示す配列のアレル頻度 (VAF) $\geq$ 4%」を満たす場合に報告されます。また、融合遺伝子は「Unique リード数 $\geq$ 10 かつ遺伝子間の融合を示す配列の一方が以下の 11 遺伝子変異であり、Unique リード数 $\geq$ 10 であるか COSMIC に登録された融合遺伝子である」に報告されます。

(1) 遺伝子変異および CNV (コピー数異常)・融合遺伝子 (*マーク)

ABL1	BRCA1	EGFR	GNAQ	MAP2K4	NRAS	RAC2	VHL
ACTN4	BRCA2	ENO1	GNAS	MAP3K1	NRG1 *	RAD51C	WT1
AKT1	BRIP1	EP300	GRIN2A	MAP3K4	NT5C2	RAF1	XPC
AKT2	CARD11	EPCAM	HRAS	MDM2	NTRK1 *	RB1	
AKT3	CCND1	ERBB2	IDH1	MDM4	NTRK2 *	RET *	
ALK *	CD274	ERBB3	IDH2	MET	NTRK3 *	RHOA	
APC	CD79B	ERBB4	IGF1R	MLH1	PALB2	ROS1 *	
AR	CDH1	ESR1	IGF2	MSH2	PBRM1	SETBP1	
ARAF	CDK12	EZH2	IL7R	MSH6	PDGFRA	SETD2	
ARID1A	CDK4	FANCA	JAK1	MTOR	PDGFRB	SMAD4	
ARID2	CDKN2A	FANCD2	JAK2	MYC	PIK3CA	SMARCA4	
ASXL1	CHEK2	FANCE	JAK3	MYCN	PIK3R1	SMARCB1	
ATM	CREBBP	FBXW7	KDM6A	MYD88	PIK3R2	SMO	
ATRX	CRKL	FGFR1 *	KDR	NF1	PMS2	SPOP	
AXIN1	CSF1R	FGFR2 *	KEAP1	NF2	POLD1	SRC	
AXL	CTNNB1	FGFR3 *	KIT	NFE2L2	POLE	STAT3	
BAP1	CUL3	FGFR4	KMT2D	NOTCH1	PRKCI	STK11	
BARD1	DDR2	FH	KRAS	NOTCH2	PTCH1	TP53	
BCL2L11	DNMT3A	FLT3	MAP2K1	NOTCH3	PTEN	TSC1	
BRAF *	ECT2L	GNA11	MAP2K2	NPM1	RAC1	TSC2	

(遺伝子名) * →融合を検出できる遺伝子(計11遺伝子)

(2) TMB、MSI、HRD

(3) MET exon14 Skipping 変異

(4) TERT プロモーター変異 (C228T、C250T)

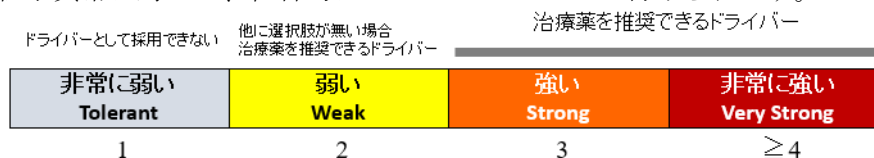
疾患のない母集団から見いだされる塩基配列の変動範囲は、Variant Allele Frequency(VAF)の測定範囲 (0~100%) です。院内エキスパートパネル (原則、月に一度開催) にて、アノテーション結果報告および臨床判断を行います。

中部国際医療センター	文書名	文書番号	版数
臨床検査技術部	検査案内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-COL-0001	9

3.10.2 臨床的判断値

(1) PleSSision スコアについて

各遺伝子異常に対して、総合的に PleSSision スコアが付けられます。



評価項目	病理・ゲノムのクローン整合性 (配点: 1)		ドライバー変異として機能評価 (配点: 2)		コピー数変異 (配点: 1)		
配点構造	メインクローン	1	良く知られたドライバ	2	OGで増幅有	1	
	サブクローン	0.5	Hypermutated	2	TSGでLOH/UPD	1	
	判定できない	0	Knowledge DBによる	1	Neutral	0	
	整合性無し	-99	コンピュータ予測	0.5			
			VUS	0			
【用語説明】 Hypermutated: 体細胞変異の多発 OG: Onco-Gene TSG: Tumor Suppressor Gene LOH: Loss Of Heterozygous UPD: Uni- Parentally Disomy			OGで増幅大			2	
			TSGで完全欠損				2

(2) 遺伝子変異の分類について

検出された遺伝子異常に対して以下3つの分類を行います。これらの分類は、アノテーション結果をもとにエキスパートパネルにて総合的に判断されます。

- Actionable 遺伝子変異：がん発症に関わる遺伝子変異。
- Druggable 遺伝子変異：実際に投薬可能な薬剤が存在する遺伝子変異。
- VUS：臨床的意義不明の変異。

3.10.3 容器一覧

病理検査室で検体作製を行いますので、臨床側で遺伝子検査用検体を準備していただく必要はありません。依頼から検体提出までの手順は「4.4 遺伝子検査（Rapid-Neo 検査）依頼～検体提出」をご覧ください。

提出材料	容器	保存	検査法	所用時間	備考
未染色 FFPE ロール	 マイクロチューブ	冷蔵(2~6℃)	NGS（キャプチャー法；SureSelect ターゲットエンリッチメントシステム）	約 4~6 週間	検体作製は病理検査室で行います。
未染色 FFPE 標本	ノンコート スライドガラス				

中部国際医療センター	文書名	文書番号	版数
臨床検査技術部	検査案内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-COL-0001	9

3.10.4 解析ソフトウェアについて

Rapid・Neo 検査におけるシーケンスデータ解析（キュレーション）は、三菱電機ソフトウェア株式会社提供のがん遺伝子データ Rapid 解析サービス(添付資料 1)を使用しています。

中部国際医療センター	文書名	文書番号	版数
臨床検査技術部	検査案内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-COL-0001	9

3.11 生理検査

3.11.1 項目一覧

【循環器生理】

生理機能検査項目	所要時間	備考
12 誘導心電図検査 (ECG)	10 分程度	
マスター2 階段負荷心電図 (シングル、ダブル、トリプル)	20 分程度	
心室遅延電位 (LP)	20 分程度	不整脈、右脚ブロック、左脚ブロックがある場合は参考値となる場合があります
ホルター心電図	右記参照	記録時間は、基本は 24 時間です 長時間記録 (2,3,4,5,6,7 日) も可能です (その間機器は外せません) 機器返却後、記録解析には 1 週間いただきます
24 時間血圧計 (ABPM)	記録: 25 時間	電話予約にて承ります
心臓超音波検査 (UCG)	30 分程度	
経食道的超音波法	30~60 分程度	検査前 2~3 時間の飲食は避けてください 検査後 1 時間の飲食は厳禁です 医師の立ち会いが必要です
負荷心エコー	60~90 分程度	電話予約にて承ります 運動負荷か薬剤負荷か選択できます 医師の立ち会いが必要です
血圧脈波検査 (ABI)	10 分程度	
負荷 ABI	30 分程度	トレッドミルで 5 分間の運動負荷を行います
皮膚灌流圧検査 (SPP)	30 分~60 分	体動が多い場合、測定できないことがあります 計測部位の希望があればコメントに記入してください

中部国際医療センター	文書名	文書番号	版数
臨床検査技術部	検査案内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-COL-0001	9

		指示が無い場合は両足の足底・足背の計測になります
血管内皮機能検査 (FMD)	20 分程度	カフェインが検査値に影響を与えるため、検査前 3 時間半～4 時間の飲食は避けてください 喫煙後は 1 時間以上あけて行います
起立性低血圧検査 (シェロングテスト)	20 分程度	
ヘッドアップティルト試験	60 分程度	電話予約にて承ります 透視室で行うため、透視室の予約が必要です 薬剤負荷を行う場合、薬剤の依頼が必要です 医師の立ち会いが必要です 検査前 2 時間の飲食は避けてください
体液量測定 (In body))	20 分程度	検査前 2 時間の飲食は避けてください 点滴または尿バルーンがある患者さんについては結果が参考値となります ペースメーカーなどの植え込み型の医療機器を使用している患者さんは検査が出来ません

【呼吸生理】

生理機能検査項目	所要時間	備考
肺機能検査 (SVC・FVC)	20 分程度	気道可逆性試験の場合は、検査前に薬剤は使用しないで下さい 気道可逆性試験の場合は、吸入後測定のための薬剤の依頼が必要です
呼気一酸化窒素測定	5 分程度	カフェインが検査値に影響を与えるため、検査前 1 時間の飲食は避けてください 喫煙後は 1 時間以上あけて行います
精密肺機能検査	60 分程度	電話予約にて承ります 【検査内容】

中部国際医療センター	文書名	文書番号	版数
臨床検査技術部	検査案内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-COL-0001	9

		SVC、FVC に加え、機能的残気量 (FRC)、肺拡散能力 (DLco)、クロージングボリューム(CV)、N ₂ 洗い出し、気道抵抗(Raw)、胸郭内気量 (Vtg) から選択して行います
携帯型無呼吸検査 (携帯型 PSG)	右記参照	電話予約にて承ります 予約日に検査説明を技師が行います 検査装置を貸出し、自宅で検査を行います 機器返却後、記録解析には 1 週間いただきます
終夜睡眠ポリグラフィ (PSG)	右記参照	電話予約にて承ります 予約日に検査説明を技師が行います 一晚入院して検査を行います 検査終了後の記録解析には 2 週間ほどはいただきます

【神経生理】

生理機能検査項目	所要時間	備考
脳波検査	70 分程度	記録は 30 分以上行います 睡眠中の記録が必要な場合は睡眠導入剤の使用も可能です
聴性脳幹反応 (ABR)	90 分～120 分程度	電話予約にて承ります 他覚的聴力検査として行います 睡眠中での検査が望ましいです
神経伝導検査	30 分～120 分程度	電話予約にて承ります ペースメーカーなどの植え込み型の医療機器を使用している患者さんは検査が出来ません 持続血糖測定器を装着している患者さんは検査できません
DM セット	60 分程度	電話予約にて承ります 神経伝導検査は、ペースメーカーなどの植え込み型の医療機器を使用している患者さんは検査が出来ません 神経伝導検査は、持続血糖測定器を装着している患者さんは検査できません 【検査内容】

中部国際医療センター	文書名	文書番号	版数
臨床検査技術部	検査案内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-COL-0001	9

		・神経伝導検査（左右のどちらかで行います） （正中神経（運動神経・感覚神経・F波）、脛骨神経（運動神経・F波）、腓腹神経（感覚神経）） ・振動覚閾値検査（音叉） ・CVR-R ・QTc
新生児用 AABR	5分～20分程度	覚醒していると検査ができない場合があります 生後6ヶ月以内が検査対象となります

【耳鼻科検査】

生理機能検査項目	所要時間	備考
標準純音聴力検査	15分程度	耳鼻科外来で行います
チンパノメトリー	5分程度	耳鼻科外来で行います
耳小骨反射	5分程度	耳鼻科外来で行います
耳鳴検査	10分程度	耳鼻科外来で行います
語音検査	30分程度	耳鼻科外来で行います
重心動揺計	5分程度	耳鼻科外来で行います
平衡機能検査、視標追跡検査、頭位及び頭位変換眼振	5分程度	耳鼻科外来で行います
前庭誘発筋電位（VEMP）	45分程度	耳鼻科外来で行います
歪成分耳音響放射（DPOAE）	10分程度	耳鼻科外来で行います
補聴器適合検査	20分程度	耳鼻科外来で行います
味覚検査	10分程度	耳鼻科外来で行います
ビデオヘッドインパルス検査	10分程度	耳鼻科外来で行います。

中部国際医療センター	文書名	文書番号	版数
臨床検査技術部	検査案内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-COL-0001	9

4. 検査依頼方法

電子カルテのオーダーリングシステムによる依頼と、伝票による依頼があります。

なお、口頭による依頼は受け付けませんので、必ず上記の方法で検査依頼をお願いします。

4.1 検体検査、細菌検査依頼

(1) 電子カルテから検査依頼を行って下さい。

- a. 患者検索画面より患者 ID を入力して、患者情報画面を開いて下さい。
- b. オーダ>検体検査、細菌検査の画面を開き、必要な検査を依頼して下さい。
- c. 検体検査は、BC ラベルを発行し、採取検体に貼り、検体検査室へ提出して下さい。救急・小児科・婦人科の当日依頼に限り、診療科で自動発行されます。

(2) オーダーリングシステム上「未登録項目」の依頼は以下のように行って下さい。

- a. システムダウン時の用紙に、検査項目と、患者 ID、氏名、生年月日、性別、採取日、主治医名等、必要事項を記入して下さい。
- b. BC ラベルを発行し、採取検体に貼り、伝票とともに検体検査室へ提出して下さい。

4.2 病理検査依頼

(1) 組織診断検査

電子カルテで病理診断オーダーを入力して下さい。

提出検体とともに病理検査室に提出して下さい。出力された依頼書にシエーマなどを追記することも可能です。臨床経過および所見等は詳細に入力して下さい。また、複数個、複数部位の検体を提出する場合は、検体との照合のために臓器名や部位、容器 No、提出個数などを必ず記入して下さい。

至急の依頼の場合は電子カルテの臨床所見の欄に至急と記載し必要な期日があれば記載して下さい。出力された病理診断依頼書の上部に赤字にて「至急」と記入して下さい。

検体と依頼書を一緒に病理検査室に提出して下さい。

他院標本（借用標本）による標本診断の場合は病理診断依頼画面左上の「標本診断」を選択し、以下、所定の入力を行って下さい。

(2) 術中迅速診断

術中迅速診断は予約制であるため主治医は病理医に電話連絡した後、前日までに電子カルテで術中迅速オーダーを入力して下さい。依頼入力すると出力された依頼書にシエーマなどを追記して下さい。臨床経過および所見等は詳細に入力して下さい。依頼書は病理検査室に事前に提出して下さい。

中部国際医療センター	文書名	文書番号	版数
臨床検査技術部	検査案内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-COL-0001	9

(3) 細胞診断検査

電子カルテで細胞診オーダーを入力する。提出検体とともに提出して下さい。臨床経過および所見等は詳細に入力して下さい。出力された依頼書にシェーマなどを追記して下さい。

出力されたバーコードラベルを検体容器に貼り病理検査室に提出して下さい。

至急の依頼の場合は電子カルテの臨床所見の欄に至急と記載し必要な期日があれば記載して下さい。出力されたバーコードラベルの余白に赤字にて「至急」と記入して下さい。

4.3 遺伝子検査（Rapid-Neo 検査）依頼 ～ 検体提出

(1) 手術日前

- 主治医は患者さんに検査についての説明と同意取得を行って下さい。電子カルテの「手術申し込み」>「網羅的がんゲノム検査の有無」を「有」にして下さい。
- がんゲノム診断診療センターの MA は、該当患者さんに対して匿名化 ID の発番と同意有無の情報入力を行い、電子カルテに「がんゲノム臨床情報（Rapid-Neo 検査用）」を立ち上げと臨床情報等の入力を行って下さい。

(2) 手術日

手術室看護師または主治医は、電子カルテから「網羅的がんゲノム検査依頼書（算定外）兼検体記録（文書番号:RE-QA-0087）」（以下、依頼書）を発行し、腫瘍組織（試料）の摘出からホルマリン固定までの各工程時間を記入し、試料と共に病理検査室へ搬送して下さい。

(3) 手術日以降

- 病理検査室の検査技師は、通常検体（病理診断目的）と同様に検体処理を行い、ホルマリン固定終了時間を依頼書に記入します。
- 病理医は病理診断を行い、「①Rapid-Neo 検査に使用する標本の選定 ②トリミング必要性の評価 ③がん細胞含有率の評価」をします。トリミングが必要な場合には HE 標本にトリミングする領域をマーキングをします。①～③の結果を依頼書に記入し、電子カルテのがんゲノム臨床情報（Rapid-Neo 検査用）の病理情報へ入力します。
- 病理検査技師は依頼書に従って標本を用意し、検体を作製します。受け渡し準備ができ次第、中部がんゲノム医療研究センター（がんゲノム検査室）検査技師に連絡し、検体を提出します。

中部国際医療センター	文書名	文書番号	版数
臨床検査技術部	検査案内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-COL-0001	9

4.4 生理検査依頼

電子カルテから検査依頼を行って下さい。

- (1) 患者検索画面より患者 ID を入力して、患者情報画面を開いて下さい。
- (2) オーダ＞生理の欄から、必要な検査を依頼して下さい。
- (3) 予約検査は検査日・時間枠も選択して入れて下さい。
- (4) 緊急で検査が必要な場合は、生理検査室に連絡をして下さい。

中部国際医療センター	文書名	文書番号	版数
臨床検査技術部	検査案内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-COL-0001	9

5. 検査採取ラベルの記載内容

5.1 検体検査

- ・ 採取容器
- ・ 検体番号
- ・ 採取日
- ・ 患者氏名
- ・ 患者生年月日
- ・ 患者 ID
- ・ 検査項目（略称）
- ・ バーコード
- ・ オーダ番号
- ・ 緊急の有無
- ・ 検査材料
- ・ 所属
- ・ オーダーコメント

5.2 微生物検査

- ・ 検査材料
- ・ 検体番号
- ・ 採取日
- ・ 患者氏名
- ・ 患者生年月日
- ・ 患者 ID
- ・ バーコード
- ・ オーダ番号
- ・ 依頼科名
- ・ 入院の場合、病棟名

5.3 病理検査

組織診断検査ラベル内容

- ・ 採取日
- ・ バーコード
- ・ 患者氏名
- ・ 臓器名
- ・ 患者 ID
- ・ オーダー日
- ・ 依頼科

中部国際医療センター	文書名	文書番号	版数
臨床検査技術部	検査案内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-COL-0001	9

6. 検体採取手順

6.1 外来採血および採尿

- (1) 採血の依頼のある患者さんは1F採血室前の採血自動受付機にて受付票のバーコードを読み取らせて下さい。読み取りエラーが出た場合は、採血室受付に受付票を提出して下さい。
- (2) 尿検査の依頼がある場合は、採血自動受付機よりBCコードラベルの付いた採尿カップが排出されますので、採血室横のトイレで尿を採取し、トイレ内の尿コップ提出場所に提出して下さい。

6.2 病棟採血および採尿

- (1) 前日16時00分までの依頼は、BC-ROBOでラベル・採血管の準備をします。
- (2) ラベルのみ出力されたものは、指定された専用容器を準備します。
- (3) 病棟でラベル発行した場合は、「3.院内検査項目および容器一覧」を参照し採血管を準備します。記載されていない項目・容器は検体受付に問い合わせして下さい。

6.3 検体採取方法

6.3.1 血液採取

(1) 採血法

「標準採血法ガイドライン (GP4-A3) (文書番号: EX-COL-0001)」に準じて血液採取を行います。

- a. 患者さんに名前をフルネームで言ってもらいます。採血者自身で、採血管の名前が一致を確認して下さい。
 - b. 採血実施します。採血の際は手袋を着用し、患者さん一人毎に交換して下さい。針刺し事故を防止するため、必ず採血ホルダー等を使用して下さい。採血ホルダーは患者さん一人につき1個使用し、その都度適切に廃棄します。
 - c. 採血後、患者さんに採血部位をしっかり指で押さえるように指示し下さい。
 - d. 採血に使用した翼状針、採血ホルダー、シリンジ、血液の付着した手袋等は感染性廃棄物とし、感染ボックスに廃棄します。
 - e. 検体は搬送まで、ラベルの指示に従い所定の場所に保管します。
- ##### (2) 採血前に処置が必要な検査項目
- a. グルコース負荷試験 (OGTT)
 - 1) 依頼から「トレーランG液75g」であることを確認します。
 - 2) 負荷前血糖採血を実施します。
 - 3) 患者さんにトレーランG液75gを全量飲んでもらいます。
 - 4) 指定された時間に再度採血を実施します。
 - b. ACTH負荷試験

中部国際医療センター	文書名	文書番号	版数
臨床検査技術部	検査案内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-COL-0001	9

- 1) 患者さんにベッドに仰向けで寝てもらいます。
- 2) 採血部位を確認し、決定したら30分間そのままの姿勢でいてもらうよう指示します。
- 3) 30分後、採血を実施します。

6.3.2 尿採取

- (1) 尿はできるだけ清潔な容器に採って下さい。尿試験紙法における最も一般的な採尿法は自然排尿で、採尿の際に前半の尿は捨て中間尿を採取して下さい。できるだけ速やかに検査を行い、尿の変質や腐敗による結果の過誤を防ぐのが望ましいです。特に、女性の採尿の場合は、膣・外陰部由来の混入物を避けるため、局所を脱脂綿またはガーゼなどで清拭後、中間尿を採取して下さい。

※中間尿の採取方法

最初の尿は採取せず、排尿を止めずに途中の尿を採尿容器に採取します。最後の尿も採取せず廃棄します。

(2) 採尿方法での留意事項

- a. 尿の種類および部分尿・蓄尿を明記します。
- b. 採尿前に尿道口を清拭することが望ましいとされています。
- c. 防腐剤は添加しないことが望ましいです。24時間蓄尿では検査目的により防腐剤や保存剤を使用することがあります。
- d. 採尿後速やかに検査室に提出して下さい。
- e. 再検査も考慮し最低10 mLの尿を採取して下さい。
- f. 生理中の方は、検査受付者に伝えるようにして下さい。

(3) 尿の種類

- a. 採尿時間による尿の種類
 - 1) 早朝尿
 - 2) 随時尿
 - 3) 24時間尿（蓄尿）
 - 4) 負荷後尿
- b. 目的による尿の種類
 - 1) 自然尿
 - 部分尿（初尿・中間尿）または全尿
 - 2) カテーテル尿
 - 3) 膀胱穿刺尿

中部国際医療センター	文書名	文書番号	版数
臨床検査技術部	検査案内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-COL-0001	9

6.3.3 便採取

採便棒で便の表面を幅広くこするか、5～6箇所突き刺して採取して下さい。

6.3.4 細菌検査材料採取

(1) 尿

原則として中間尿かカテーテル尿を清潔な容器に採取します。すぐに提出できない場合は冷蔵で保存します。常温で2時間以上放置した検体は検査材料として望ましくありません。ただし、目的菌として、*Chlamydia*、*Neisseria gonorrhoeae*、腔トリコモナス原虫の場合は初尿を採取し、これらは常温で保存する必要があります。

(2) 便

糞便は清潔な容器に採取します。すぐ（6時間以内）に検査できない場合はシードスワブ1号を用いて下さい。すぐに検査室に提出できない場合は冷蔵で1～2日間は保存可能です。CD検査は赤痢アメーバ検査はシードスワブ1号を用いて採取せず、糞便用容器を用い、ブリストルスケール4以下の検体は検査材料として望ましくありません。また、赤痢アメーバ（栄養型）を目的菌とする場合、低温では死滅するため、保存せずにただちに検査室に提出する必要があります。

(3) 痰

喀痰を採取する前に患者さんにうがいをしてもらい、大きな咳き込みと同時に出てきた検体を喀痰容器に採取します。喀痰が出ない場合、3～5%の高張食塩水をネブライザーで吸入してもらおうと排痰を誘発することができます。自己喀出が難しい場合は気管吸入キットを用いて採取して下さい。

(4) 胆汁

採取後すみやかに冷蔵保存して下さい。嫌気性菌を考慮して、嫌気ポーターの使用が望ましいです。

(5) 膿・分泌物（眼、耳・鼻漏、皮膚、創部、潰瘍部）

シードスワブ2号付属の綿棒で患部を擦過し、採取して下さい。

(6) 腔分泌物

外陰部を洗浄・消毒後、シードスワブ1号付属の綿棒で腔前庭部の新鮮な分泌物を採取して下さい。

中部国際医療センター	文書名	文書番号	版数
臨床検査技術部	検査案内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-COL-0001	9

(7) 穿刺液

穿刺部分を十分に消毒後、滅菌注射器で穿刺、吸引し滅菌スピッツに採取して下さい。嫌気性菌を考慮して、嫌気ポーターの使用が望ましいです。

(8) 血液

抗菌薬投与以前に実施する必要があります。

採取部位を決め、アルコール綿で清拭し、乾燥後、ヨード剤を穿刺部位から周辺に向かって塗布し、乾燥するまで待ちます。術者は滅菌手袋を装着して、注射器で 20mL 採血し、嫌気ボトルに 10mL、残りを好気ボトルに分注して下さい。同様の操作を 2 箇所目でも行って下さい。

採取後、すみやかに検査室に提出して下さい。

6.3.5 抗原・遺伝子検査材料

検体を採取する際は、暴露リスクに対して个人防护具の着用を含め適切な感染防御策が必要です。検体採取後は、すみやかに検査室へ提出して下さい。

(1) 鼻咽頭ぬぐい液

鼻腔用の細い綿棒を鼻腔孔から耳孔を結ぶ線にほぼ平行に沿ってゆっくり挿入し、抵抗を感じたところで止め（成人 10cm、小児 5cm 前後が目安）、10 秒程度そのままの位置で保ち鼻汁を浸透させ、ゆっくり回転させながら引き抜いて下さい。綿棒を指定の容器に入れ、ウイルス輸送液が入った容器であれば漏れないようにキャップをしっかりと閉め下さい。その後、ポリエチレン製の口を閉じることのできる袋に入れて下さい。

(2) 咽頭ぬぐい液

咽頭を観察しやすいように、患者には顎を水平を保つよう正面を向いた姿勢になってもらいます。検体採取部位が見えるように舌圧子を用いて、舌を下方に圧排して下さい。手技者が右利きであれば、舌圧子は左手に持ち、右手でスワブを持ちます。スワブも舌根部に触れないよう目的の部位を擦過し採取して下さい。

(3) 唾液

唾液の採取は、被験者自身が自然に徐々に流出する唾液を喀痰容器に 1～2mL 程度溜めて下さい。飲食（飲水を含む）や歯磨き、うがい直後の唾液採取はウイルスの検出に影響を与える可能性があり、避けるべきです。目安としてこれら行為のあと最低 10 分以上、できれば 30 分ほど空けることが望ましいです。検体採取後、漏れないように容器のキャップをしっかりと閉め、ポリエチレン製の口を閉じることのできる袋に入れて下さい。詳細に関しては、「新型コロナウイルス検査における唾液採取方法（添付資料 2）」に記載してありますので参照して下さい。

中部国際医療センター	文書名	文書番号	版数
臨床検査技術部	検査案内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-COL-0001	9

6.3.6 病理検査材料

(1) 組織診断検査

- a. 摘出した組織は自家融解、乾燥から防ぐため、直ちに 10% 中性緩衝ホルマリン液が入った容器に入れ、固定して下さい。
- b. 固定容器には、患者氏名を必ず明記して下さい。複数部位採取の際には採取部位（臓器名や容器 No.等）も明記して下さい。これらの情報は容器本体に記入する。蓋に記入した場合は容器本体にも記入して下さい。

(2) 術中迅速診断

- a. 摘出した組織は乾燥を防ぐため、生理食塩水で湿らせたガーゼまたは濾紙に包んで下さい。その後、組織を包んだガーゼまたは濾紙をシャーレに入れて下さい。
- b. シャーレには患者氏名、採取部位名、採取した手術室内線番号を必ず明記して下さい。複数部位採取の際には採取部位（臓器名や容器 No.等）も明記して下さい。

(3) 細胞診断検査

- a. 婦人科材料...プレパラートに塗抹後、直ちに固定液に浸漬して下さい（湿固定）。固定液に浸漬したまま提出して下さい。プレパラートのフロスト面に鉛筆で患者氏名を明記し、バーコードラベルは台紙に貼って下さい。
- b. 喀痰（蓄痰法）...同じ容器に 3 日分の喀痰を入れて下さい。喀痰を入れるごとに、蓋を閉めて、上下に攪拌して下さい。生痰を提出の場合は、滅菌喀痰容器に入れて提出して下さい。検体容器には必ずバーコードラベルを貼って下さい。
- c. 尿...自然尿は随時尿を全量提出して下さい。容器には必ずバーコードラベルを貼って下さい。
- d. 体腔液...セルブロック作製や検体保存を希望の場合は、さらに多くの検体量が必要な場合があります。抗凝固剤入り滅菌スピッツに入れバーコードラベルを貼って下さい。
- e. 胆汁・腓液など...氷冷して早めに病理検査室に提出して下さい。容器には必ずバーコードラベルを貼って下さい。
- f. 穿刺吸引検体...検体採取時に検査技師がベッドサイドにて検体処理を行うので、病理検査室(TEL : 8110)に連絡をして下さい。

中部国際医療センター	文書名	文書番号	版数
臨床検査技術部	検査案内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-COL-0001	9

7. 搬送手順

7.1 検体搬送手順

(1) 救急外来および病棟・手術室で採取した場合

検体検査室にエアシューターにて搬送するか、検査室が決定した所定の検体置き場（室温）に置いて下さい。搬送には検査室指定の搬送容器を用いて破損や紛失を回避して下さい。エアシューターが故障などで使用できない場合は、梱包容器やバッグを用いて破損や紛失を回避し、直接検体検査室へ搬送して下さい。

(2) 採血室・処置室および検体採取室で採取した場合

採血場所からの検体は専用トレイを用い、採血室内のダムウェーターにて検体検査室に搬送して下さい。採尿室からの検体は採尿窓口で受け取り、専用トレイを用い、同様にダムウェーターにて検体検査室に搬送して下さい。ダムウェーターが故障などで使用できない場合は、梱包容器やバッグを用いて破損や紛失を回避し、直接検体検査室へ搬送して下さい。

(3) 内視鏡室、腎センターおよび外来で採取した場合

検体搬送には検査室指定の搬送容器を用いて直接検体検査室へ搬送して下さい。その際、破損や紛失を回避するよう注意して下さい。

(4) その他注意点

- 新型コロナウイルス検査検体やその他感染性の高い検体に関しては、採取容器に加え、エアロゾルが外部に漏れないようポリエチレン製の袋等で梱包された状態かつ専用の搬送容器を用いて検査室へ搬送して下さい。
- 検体の可視化を避け、個人情報の保護ができるよう注意して下さい。
- 原則として、検体採取後速やかに検査室に搬送されるため、搬送の温度は室温で問題はありません。
- そのほか、各検査項目一覧に記載がある項目は、その指示に従って搬送して下さい。(一次サンプル採取マニュアルの各項目に以下の内容が書いてあるが、搬送の項目でも記載する場合は以下の内容でお願いします)
- アンモニアは採取後直ちに提出して下さい。直ちに提出できない場合は、氷冷保存し、30分以内に提出して下さい。提出の際は事前に電話連絡をお願いします。
- 血液ガスは、シリンジで採取した場合は、採取後30分以内に提出してください。キャピラリー管の場合は、採取後10分以内に提出してください。提出の際は事前に電話連絡をお願いします。

7.2 病理検体搬送手順

組織診検体は10%中性緩衝ホルマリン液にて固定されているため、輸送する際はこぼれないよう、梱包容器やバッグを用いて破損や紛失を回避して下さい。原則、受付時間以外に採取した検体は採取した部署にて保管をお願いします。その際、組織診検体は常温、細胞診検体は冷蔵にて保管が必要です。

中部国際医療センター	文書名	文書番号	版数
臨床検査技術部	検査案内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-COL-0001	9

7.3 生理検査患者搬送手順

基本的に、来院し独歩にて生理検査室へお越し下さい。歩行困難な患者さんの場合、車椅子またはストレッチャーにて移動をお願いします。必要に応じて、患者さん家族、または看護師、医療事務員などが付き添って下さい。

中部国際医療センター	文書名	文書番号	版数
臨床検査技術部	検査案内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-COL-0001	9

8. 検体受付および患者受付手順

8.1 受付場所

- (1) 外来採血、採尿受付
月曜日～土曜日（8:00～17:00）：1F 採血室（TEL:4500）
- (2) 検体検査、微生物検査
日常業務時間内（8:30～17:00）：2F 検査技術部検体受付（TEL：4510）
・微生物検査は当日検査 16:00 までの提出が必要。
・時間外、休日：7880 に連絡して下さい。
- (3) 生理検査
月曜日～土曜日（8:00～17:00）：2F 生理検査室（TEL:4530）
- (4) 病理検査、遺伝子検査
日常業務時間内（8:30～17:00）：2F 病理検査室（TEL：8110）
・時間外、休日：7880 に連絡して下さい。

8.2 検体検査受入不可基準

- (1) 検体のラベル表示不良
 - a. ラベル貼付なし
 - b. 2名以上の氏名が記載されたラベルが貼付された検体
 - c. 依頼内容と検体ラベルの不一致
- (2) 検体の不良
 - a. 指定された採取容器で採取されていない検体
 - b. 保存状態・搬送状態が不適切な検体（冷蔵・氷冷・遮光などされていない）
 - c. 全血状態で長時間放置された検体（特にアンモニア）
 - d. 検査に適していない検体（溶血、脂肪血などの干渉）
 - e. 凝固している検体
 - f. 検体量が検査に不十分
 - g. 凝固線溶・血沈検査で採血許容量の過不足
- (3) その他
 - a. 患者さんのとり違い
 - b. 患者状態の不備（空腹時採血、時間指定採血、安静採血など遵守できていない）
 - c. 検査済み検体のラベルの貼付した検体
 - d. 依頼書が必要な検体の不備
 - e. 依頼中止されている検体
 - f. 尿材料の種別違い（早朝尿、随時尿、蓄尿など）

中部国際医療センター	文書名	文書番号	版数
臨床検査技術部	検査案内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-COL-0001	9

(4) 結果の解釈に重大な影響を与える要因

- a. 溶血
カリウムや AST・ALT・LDH などが高値になります。
- b. 全血の室温放置
経時的にアンモニアが上昇する。
- c. 赤血球凝集
寒冷凝集などによる赤血球凝集では MCHC が異常高値になります。
- d. EDTA 依存性血小板減少
抗凝固剤の EDTA により血小板凝集がおこり、血小板数偽低値を生じます。

8.3 微生物検査受入不可基準

(1) 検体のラベル表示不良

- a. ラベルなし
- b. 2 名以上の氏名が記載されたラベルが貼付された検体
- c. 依頼内容と検体ラベルの不一致

(2) 検体の不良

- a. 喀痰の一般細菌、抗酸菌検査の唾液様検体
- b. 膿培養のスワブ採取検体の嫌気性培養
- c. CD 抗原検査の便でブリストールスケール 4 以下の検体または陽性判定後 1 週間以内に提出された検体
- d. 常温で 2 時間以上放置された検体（髄液および目的菌が *hlamydia*、*Neisseria gonorrhoeae*、脛トリコモナス原虫以外）
- e. 検体量が検査に不十分
- f. 唾液検体の量が不十分、痰や食物残渣、血液が混じっている場合。

(3) 検体採取エラー

- a. 患者さんの取り違い
- b. 採取部位間違い

(4) その他

- a. 検査済み検体のラベルの貼付した検体
- b. 指定採取日違い
- c. 依頼中止されている検体

8.4 病理検体受入不可基準

(1) 依頼書と検体の照合の不備

- a. 依頼書と検体の患者氏名、患者 ID が不一致。

中部国際医療センター	文書名	文書番号	版数
臨床検査技術部	検査案内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-COL-0001	9

- b. 手術で切除した検体のシェーマが未記載。
- c. シェーマと提出された検体が明らかに異なる。
- d. 臓器名と提出された検体の臓器が異なる。
- e. 臨床所見と提出された検体が異なる。
- f. 検体採取日時が未来の日時になっている場合。

(2) 検体の不備

- a. 検体に患者氏名、患者 ID の記載がない
- b. 検体が容器の中に入っていない。もしくは目視確認できないほどの小さな検体。
- c. 他部署で使用するラベルが貼り付けてある検体。または複数名のラベルが貼り付けてある検体。
- d. 検体として提出されたスライドガラスが破損している場合。

8.5 遺伝子検体受入不可基準

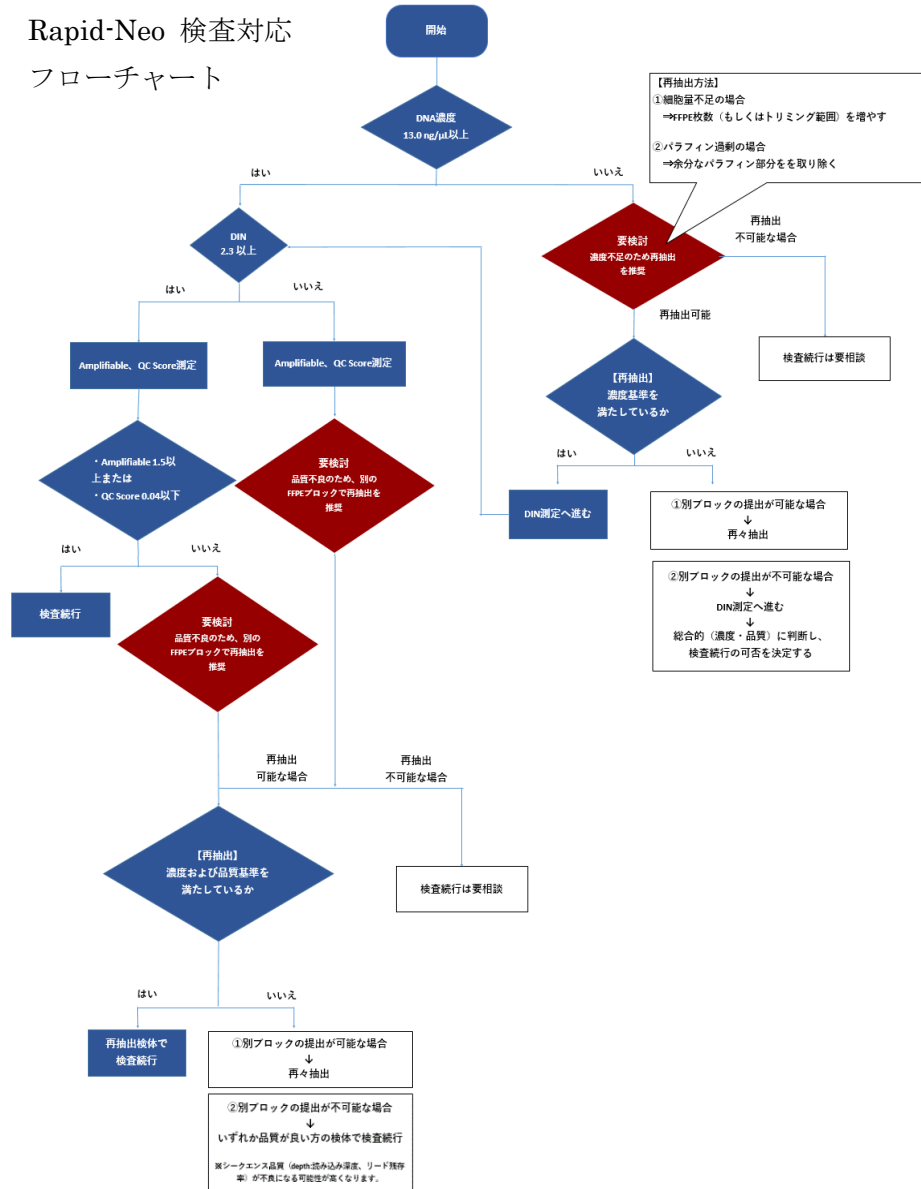
- (1) 医師による検査説明時に、検査同意が取得されていない場合
- (2) 指定の採取容器にて採取されていない場合。
- (3) 病理医による病理診断の結果、腫瘍細胞が認められない場合。また、関節液、リコール、尿、血清、血漿等、十分な量の有核細胞が含まれない材料においては、検査必要量の核酸が得られないため基本的に測定不可。
- (4) 各工程における DNA 濃度および品質が以下の基準を満たさない場合は、解析結果の解釈に重大な影響を与えうる可能性が高く、検査を続行できない場合があります。その際は、病理医と協議の上で検査続行の可否を判断いたします。

	基準
Genomic DNA	13.0 ng/μL 以上 (推奨は 17.2 ng/μL ≧ Library 作成時のインプット量 120 ng 以上)
	DIN 値 2.3 以上
	QC score 0.04 以下、Amplifiable 1.5 以上
Library	10 ng/μL 以上

中部国際医療センター	文書名	文書番号	版数
臨床検査技術部	検査案内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-COL-0001	9

基準に対する対応方法は、下記の「Rapid-Neo 検査対応フローチャート」をご参照ください。

Rapid-Neo 検査対応
フローチャート



8.6 生理検査実施不可となる場合

生理検査では、以下の場合には検査が行えない可能性があるため、依頼医へ検査の実施について問い合わせさせていただきます。

- (1) 患者さんの協力が得られず、検査を拒否、もしくは行う事に同意が得られない場合
- (2) 電極の装着が不可能な状況（装着場所に外すことのできない器具がある）
- (3) 安静体位の維持が困難な場合
- (4) 患者さんの協力が必要な検査において一通りの検査手技を行うことができない場

中部国際医療センター	文書名	文書番号	版数
臨床検査技術部	検査案内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-COL-0001	9

合

- (5) 直立する必要がある検査で、直立できない患者さん
- (6) 電気刺激を行う検査において、ペースメーカー、DBS（脳深部刺激療法）などの植え込み型医療機器がある患者さん
- (7) 運動負荷を行う検査において、装置を使用できない場合。
- (8) 新生児、乳児の検査において、体動が激しく興奮状態の場合、保育器を使っている場合、中枢神経系興奮剤、聴覚毒性の薬剤を投与されている場合。
- (9) 長時間の記録が必要な検査において、記録中にセンサーを外してしまう可能性がある場合。
- (10) 食事制限が必要な検査で、食事制限がなされていない場合。

中部国際医療センター	文書名	文書番号	版数
臨床検査技術部	検査案内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-COL-0001	9

9. 追加検査の依頼手順

依頼検体が、追加可能時間内であり、残量があれば追加検査が可能です。詳細は、臨床検査技術部にお問い合わせください。

検体保存期間および追加可能時間一覧

	検体種類	保存期間（保存方法）	追加可能時間
尿・一般検査	尿定性	検査当日中（室温）	1 時間
	尿沈渣	検査当日中（室温）	4 時間
	便潜血	検査当日中（室温）	1 日間
	髄液一般	検査当日中（室温）	1 時間
血液検査	血算	3 日間（冷蔵）	4 時間
	血液像	3 日間（冷蔵）	4 時間
	赤沈検体	3 日間（冷蔵）	追加不可
	凝固	3 日間（冷蔵）	4 時間
	末梢血液塗抹標本	3 ヶ月（室温）	追加不可
	骨髄（有核細胞数・骨髄巨核球数）	検査終了後まで（室温）	追加不可
	末梢血液塗抹標本	3 ヶ月（室温）	追加不可
	骨髄塗抹染色標本 （診断に用いた標本）	永久保存	追加不可
	骨髄塗抹染色標本 （上記以外の標本）	5 年保存	追加不可
	骨髄未染色標本	3 ヶ月（室温）	追加不可
生化学・免疫血清検査	生化学検体・免疫血清検体	1 週間（冷蔵）	1 週間 (総検体：当日中) (CKMB：12 時間) (LD：4 日間) (PCT：2 日間) (PSA：5 日間) (NT-proBNP:6 日間)
	血清浸透圧、尿浸透圧	3 日間（冷蔵）	3 日間
	新生児検体	3 日間（室温）	追加不可
	アンモニア検体	1 週間（冷蔵）	追加不可
	尿生化学	1 週間（冷蔵）	1 週間 (尿糖：追加不可)

中部国際医療センター	文書名	文書番号	版数
臨床検査技術部	検査案内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-COL-0001	9

	血液ガス検体	検査終了後まで (室温)	追加不可
	血糖・HbA1c 検体	3 日間 (冷蔵)	3 日間
	髄液生化学	1 週間 (冷蔵)	1 週間 (髄液糖：追加不可) (髄液蛋白：6 日間)
	保存依頼検体	2 年間 (-80℃凍結)	2 年間
輸血検査	血液型検査	3 日間 (冷蔵)	3 日間
	クームス試験	3 日間 (冷蔵)	3 日間
	輸血検査受血者血清・血漿	3 日間 (冷蔵)	3 日間
	輸血前検体	2 年間 (凍結)	2 年間
	製剤セグメント	1 か月 (冷蔵)	1 か月
細菌検査	全検体	1 週間 (冷蔵)	1 週間
	抗酸菌培養陽性菌株 (外注)	培養陽性後 1 か月 (室温)	培養陽性後 1 か月
新型コロナウイルス検査	鼻咽頭ぬぐい液	当日夕方	原則追加不可
病理検査	ホルマリン固定残組織材料	2 か月 (室温)	2 か月
	組織診標本(パラフィンブロック)	永久保存 (室温)	永久
	組織診標本(染色済みスライドガラス)	永久保存 (室温)	追加不可
	細胞診染色標本 (有所見標本)	永久保存 (室温)	追加不可
	細胞診染色標本 (陰性標本)	5 年保存 (室温)	追加不可
遺伝子検査	DNA 抽出液	※1 (-80℃凍結)	※2

※1 「検査終了から 5 年、あるいは検査に関連したあらゆる論文の公表日から 3 年のいずれか遅い日」を保存期間とするが、追加の検査の必要性が生じた場合などに対応するため、原則保存期間が過ぎた後も可能な限り長期に保管することとします。

※2 遺伝子検査検体の場合、DNA 品質によっては追加検査ができない場合があります。詳細は、中部がんゲノム医療研究センター (がんゲノム検査室) にお問い合わせください。

中部国際医療センター	文書名	文書番号	版数
臨床検査技術部	検査案内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-COL-0001	9

10. 各種申請手続き（患者同意に関する事項）

委託検査時に、適切なヘルスケア専門家に臨床情報及び家族歴を公開することへの同意書等の提出が必要な場合がありますのでご了承下さい。

11. アドバイスサービスの案内

検査の依頼および検査結果の臨床アドバイスに関する問い合わせ先は、本検査案内の検査技術部連絡先に問い合わせください。

中部国際医療センター	文書名	文書番号	版数
臨床検査技術部	検査案内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-COL-0001	9

12 パニック値報告手順

12.1 パニック値一覧

◎パニック値の設定・・・即刻治療が必要になるような、基準値を大きく外れた値

【検体検査】

検査項目	パニック値	
	以下	以上
AST		1000U/L
ALT		1000U/L
LD		1000U/L
CK		1000U/L
AMY		1000U/L
Na	120mmol/L	160mmol/L
K	2.5mmol/L	6.0mmol/L
K（透析前）	2.5mmol/L	6.5mmol/L
K（透析後）	2.0mmol/L	6.0mmol/L
Ca	6.0mg/dL	12.0mg/dL
血糖	50mg/dL	500mg/dL
血糖（内分泌科外来）	60 mg/dL	500mg/dL
トロポニン T		0.100ng/mL
Mg		7.5mg/dL
LDL-Cho		250mg/dL
白血球数	1500/ μ L	30000/ μ L
ヘモグロビン	5.0g/dL	
血小板数	3.0×10^4 / μ L	
血液像		芽球、異常細胞の出現
PT 比	15.0%	
PT-INR		5.0
凝固・線溶系項目		測定不可
HIV 抗原抗体		(+)
尿中レジオネラ抗原		(+)
尿中異型細胞		(+)
APTT（血液内科）		45 秒
Fib（血液内科）	100 mg/dL	
Dダイマー（血液内科）		25.0 μ g/mL

中部国際医療センター	文書名	文書番号	版数
臨床検査技術部	検査案内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-COL-0001	9

FDP (血液内科)	50.0 μ g/mL
------------	-----------------

【微生物検査】

検査項目	パニック値に相当する事象
血液培養	陽性
髄液グラム染色	いずれかの菌の検出
一般細菌培養検査	感染症法の五類感染症以上に相当する細菌の検出
抗酸菌検査	
(1) 抗酸菌染色	(±)以上
(2) 結核菌群 PCR	陽性
(3) 抗酸菌培養	陽性
(4) 抗酸菌同定	Mycobacterium tuberculosis
新型コロナウイルス検査	
(1) 抗原定量 (ルミパルス)	10.0pg/mL 以上
(2) 抗原定性	陽性
(3) 遺伝子 (IDNOW)	陽性
(4) 遺伝子 (Genexpert)	陽性
(5) 遺伝子 (FilmArray)	新型コロナウイルス陽性

【病理検査】

検査項目	パニック値に相当する事象
組織診断検査	病理医が緊急度の高い症例(悪性腫瘍、感染性疾患)と判断した症例
術中迅速診断	
細胞診断検査	

【生理機能検査】

心電図	
(1) 致死性不整脈	・ 心室細動
	・ 心室頻拍 (VPC3 連発以上)
(2) 徐脈性不整脈	・ 完全房室ブロック
	・ 高度房室ブロック
	・ Mobits II 型房室ブロック
	・ 洞停止 (3 秒以上)
(3) 頻脈性不整脈	・ 心拍数 140 以上の narrowQRS
(4) 虚血性心疾患	・ 急性冠症候群を示唆する心電図

中部国際医療センター	文書名	文書番号	版数
臨床検査技術部	検査案内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-COL-0001	9

	・ ST 低下・ ST 上昇
(5) その他	・ RonT 型心室期外収縮
	・ ペースメーカー不全
	・ たこつぼ型心筋症
	・ 前回との著明な波形変化
マスター負荷心電図	負荷後、虚血性 ST 変化（上昇あるいは 2mm 以上の低下）
ホルター心電図	
(1) 致死性不整脈	・ 心室細動
	・ 心室頻拍（VPC3 連発以上）
(2) 徐脈性不整脈	・ 完全房室ブロック
	・ 高度房室ブロック
	・ 覚醒時 3.0 秒以上のポーズ
(3) その他	・ ペースメーカー作動異常
	・ 心筋虚血に伴う ST 変化
心エコー	・ 急性心筋梗塞。又はそれに伴う合併症
	・ 大動脈解離
	・ 重篤な人工弁機能不全
	・ 心内血栓
	・ 腫瘍
	・ 感染性心内膜炎
	・ 心筋炎
	・ 心タンポナーデ
脳波	・ 臨床発作時

上記以外にも検者が必要と判断した場合は臨床に直接報告します。

12.2 パニック値の報告

- (1) 検査室の結果報告者又は結果評価担当者は、緊急異常値（パニック値）を報告受領者に報告します。その報告フローに関しては（2）に記載します。微生物検査のパニック値（血液培養陽性以外）に関しては、ICD（感染制御専門医師）又は ICT（感染制御チーム）メンバーへ報告します。
- (2) 報告に関しては、原則として依頼医師（または主治医）のモバイルに連絡するが、連絡がとれない場合、下記の順に連絡します。
 - a. 依頼医師（または主治医）外線
 - b. 診療部長モバイル
 - c. 診療部長外線
 - d. 医師待機表の医師

中部国際医療センター	文書名	文書番号	版数
臨床検査技術部	検査案内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-COL-0001	9

(3) 検査室の結果報告者又は結果評価担当者は、これらの記録を「緊急報告連絡票」として作成するか、検体検査の場合はシステム上で作成します。

13. 個人情報の保護に関する検査室の方針

当院の「個人情報保護規則（文書番号：EX-HP-0002）」に準じて対応します。

14. 検査室の苦情について

検査室への苦情の連絡先は、検査案内の検査技術部連絡先に問い合わせください。患者さんおよび職員より寄せられた苦情につきましては、当院「苦情処理手順書（文書番号：QT-QA-0005）」に準じて検査室内で検討・対応します。

15. 関連文書

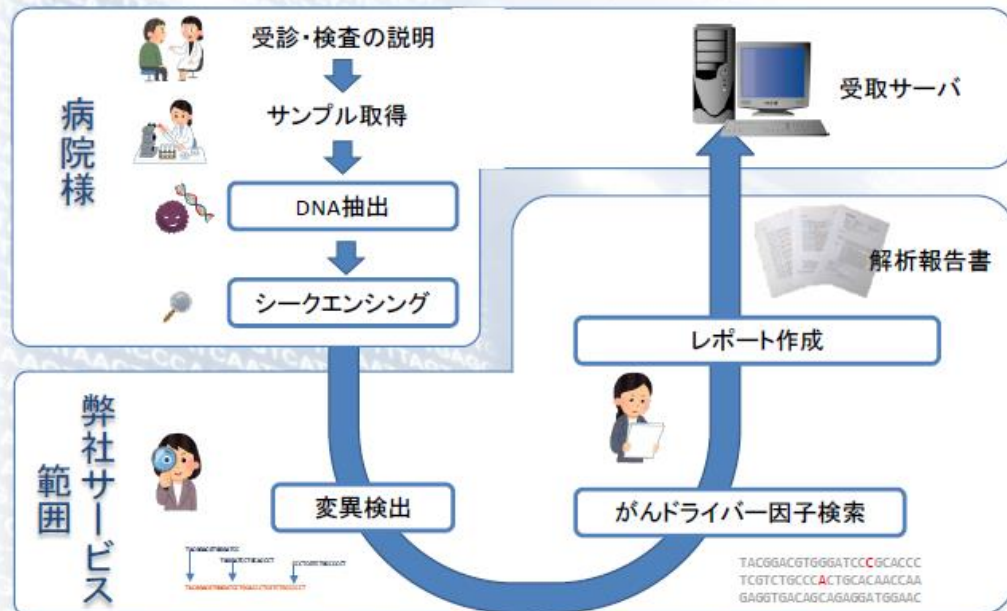
- ・品質マニュアル（文書番号：QM-DIR-0001）：7.2 検査前プロセス
- ・個人情報保護規則（文書番号：EX-HP-0002）
- ・苦情処理手順書（文書番号：QT-QA-0005）
- ・標準採血法ガイドライン（文書番号：EX-COL-0001）
- ・網羅的がんゲノム検査依頼書（算定外）兼検体記録（文書番号:RE-QA-0087）

中部国際医療センター	文書名	文書番号	版数
臨床検査技術部	検査案内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-COL-0001	9

16. 添付資料

添付資料 1

がん遺伝子データ解析サービス



◆特徴

- ①迅速対応
- ②検査対象遺伝子数=143遺伝子&融合遺伝子
- ③解析報告書
 - ・遺伝子解析に関する品質情報
 - ・置換変異(10種類以上)生化学的ダメージ予測情報
 - ・ゲノムデータベースより得られるアノテーション情報
 - ・CNVの検出情報
 - ・TMBの予測情報

◆解析サービス料金

サービス区分	定価
がん遺伝子データRapid解析サービス	オープン価格

<注記>

- ー ご契約に際しては、別途「がん遺伝子データ解析サービスに関する契約」を締結頂く必要があります。本サービスの詳細等につきましては、当該契約書をご参照ください。
- ー 上記の料金は解析サービス料であり、データの転送、受取に必要なサーバー及びネットワークの使用料金は含まれておりません。

 三菱電機ソフトウェア株式会社

中部国際医療センター	文書名	文書番号	版数
臨床検査技術部	検査案内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-COL-0001	9

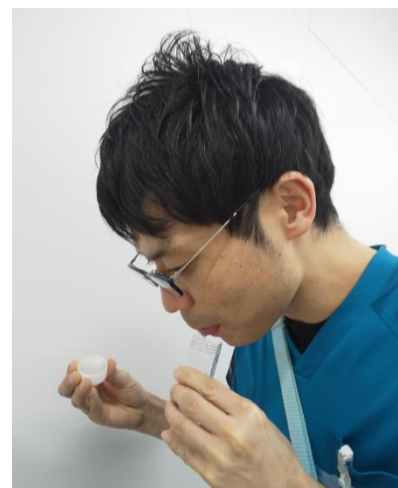
添付資料 2

新型コロナウイルス検査における唾液採取方法

<唾液の採取方法について>

※採取前の 30 分以内は飲食や歯磨き、うがいはしないようにして下さい

- ①唇を閉じて、口の中に唾液がたまるのを待ちます。
(レモンなど酸っぱいものを想像するとよいです)
- ②採取容器のふたを開けて唾液を直接滴下します。
- ③液体成分が渡された容器の底の三角部分を満たすまで②③を繰り返して下さい。
- ④量が十分になったら、容器のふたをしっかりと閉めて下さい。
- ⑤渡されたチャック付きの袋の表面に唾液が付かないように中に容器を入れて下さい。



採取が終わったら唾液が漏れないようふたは閉めて下さい。

このラインまでしっかり唾液を貯めて下さい。

チャックの口はしっかり閉じて下さい。この状態で提出します。



中部国際医療センター	文書名	文書番号	版数
臨床検査技術部	検査案内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-COL-0001	9

改版/レビュー履歴

版	区分	施行日 レビュー日	変更内容	作成者 作成日	承認者 承認日
1	作成	2022/4/25	新規作成	山口明彦 2022/4/11	鈴木敦 2022/4/15
2	改訂・レビュー	2022/11/1	- 目次を作成 1.検査室の所在地の外注委託先を変更 - 新型コロナ関連の内線番号追加 3.1.1 項目一覧 バンコマイシンを追加、*6 を追加。 3.2.1 血液学：エステラーゼ染色、PAS 染色を検査項目から削除、骨髓像基準範囲を追加、NAP スコアの基準範囲の引用元変更、項目名「ALP Rate」を「陽性率」に変更と単位を追加 3.2.1 「NAP スコア」、3.6.1 「マンモ CEA」「精液検査」の備考を追加 3.4.1 項目一覧 *2、*3 を追加。 3.6.1 項目一覧 *3、*4 を追加。 3.8.1 新型コロナ遺伝子 (GeneXpert) に材料唾液を追加 - 細菌検査の当日検査 (グラム染色、Nugent スコア、抗酸菌染色、結核菌群 PCR) の受付時間を 15 時 30 分に変更 - 糸状菌培養のオーダ項目は削除、目的菌より糸状菌を選択してオーダに変更 3.8.2 嫌気ボトルを紫キャップに変更、膿のスワブ検体の嫌気培養に対する注意書き追加 3.9.1 3) 備考を追加 3.10.1 項目一覧 遺伝子検査の検出範囲を追記 3.11.1 生理検査項目変更 6.3.5 新型コロナウイルス検査材料 8.3,8.4 検査の受入不可基準追加 9 追加検査の依頼手順の保存期間、追加可能時間を追加	山口明彦 2022/10/3	鈴木敦 2022/10/4
2	改訂・レビュー	2023/2/28	レビュー(変更無し)	山口明彦 2023/2/28	鈴木敦 2023/2/28
3	改訂・レビュー	2023/4/28	1. 検査室の所在地の内容変更 3.1.1 項目一覧 *6 の内容改訂。 3.3.1 血中マイグロプラスマ抗体、心筋トロポニン T (定性) 中止のため項目削除 3.8.1 微生物検査項目一覧の内容改訂 3.8.2 容器一覧の内容変更 3.6.1 尿検査、糞便検査、その他材料の検査項目一覧の内容改訂	山口明彦 2023/4/12	鈴木敦 2023/4/13

中部国際医療センター	文書名	文書番号	版数
臨床検査技術部	検査案内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-COL-0001	9

			・ 3.6.2 便潜容器変更 ・ 3.11.1 生理検査項目を追加 ・ 6.3.4 細菌検査材料採取の内容改訂 ・ 8.3 微生物検査受入不可基準の内容改訂 ・ 8.5 遺伝子検体受入不可基準 改訂 ・ 9.追加検査の依頼手順の追加可能時間の内容改訂 ・ 12.1 パニック値一覧【微生物検査】の内容改訂 ・ 16.添付資料の添付資料 1 改訂 ・ 16.添付資料 2「新型コロナウイルス検査における唾液採取方法」を追加した。		
4	改訂・レビュー	2023/5/31	・ 3.8.2 容器一覧の内容変更	山口明彦 2023/5/23	鈴木敦 2023/5/23
5	改訂・レビュー	2023/8/3	・ 中部がんゲノム医療研究センターの名称を中部がんゲノム医療研究センター（がんゲノム検査室）に変更 ・ 8.4 病理検体受入不可基準に破損したスライドガラスについて記載 ・ 9. 追加検査の依頼手順に組織診標本（染色済みスライドガラス）を追加 ・ 12.1 パニック値一覧のトロポニン T を (+) →0.100ng/mL に変更	山口明彦 2023/7/27	鈴木敦 2023/7/27
5	改訂・レビュー	2024/3/13	レビューの結果第 6 版として改訂	山口明彦 2024/3/13	鈴木敦 2024/3/13
6	改訂・レビュー	2024/4/12	・ 3.1.1 項目一覧 P 型アミラーゼ、浸透圧(血清)基準値変更 ・ 3.2.1 項目一覧 好酸球、網赤血球数・比率、出血時間基準範囲変更、白血球分類絶対数項目追加、PT(秒)項目削除、引用元改版 ・ 3.3.1 項目一覧 HCG 定性(尿中)基準値新規設定、HCG 定量(血中) 基準値変更 ・ 3.4.1 項目一覧 基準範囲変更 ・ 3.6.1 項目一覧 基準値引用元変更、髄液蛋白(定量)基準値変更 ・ 3.7.1 項目一覧 基準範囲追記 ・ インフルエンザ、マイコプラズマ、RS、咽頭アデノ、A 群溶連菌抗原検査を 3.6 から 3.8 へ移動 ・ 3.8.1 項目一覧を【細菌検査】【ウイルス・細菌抗原検査】【新型コロナウイルス検査】に分けた。 ・ 3.8.2 容器一覧で血液培養ボトルの備考に採取部位の記載について追加した。 ・ 12.1 パニック値一覧に血糖（内分泌科外来）、血液像、APTT(血液内科)、Fib（血液内科）、D ダイマー（血液内科）、FDP（血液内科）、新型コロナウイルス抗原定性を追加	山口明彦 2024/3/13	鈴木敦 2024/4/1

中部国際医療センター	文書名	文書番号	版数
臨床検査技術部	検査案内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-COL-0001	9

			・ 3.11.1 項目一覧の FMD、体液量測定、呼気一酸化窒素測定、ヘッドアップティルト試験、DM セットの備考欄に追記 ・ 3.11.1 項目一覧に神経伝導検査を追加 ・ 8.6 に 10)食事制限がある場合を追加 ・ 3.10.2 に Rapid-Neo 検査における臨床的判断値を追記		
7	改訂・レビュー	2024/6/21	・ 外注委託先に日本赤十字社 東海北陸ブロック血液センターを追加 ・ 3.1.1 項目一覧の尿グルコースをはじめ測定方法の改訂 ・ 3.1 に尿項目を追記、検査方法の追記 ・ 3.2.1 項目一覧の測定方法の改訂 ・ 3.3 の基準範囲、単位を追記 ・ 3.3.1 項目一覧の測定方法の改訂 ・ 12.1 パニック値一覧に尿中異型細胞を加え、新型コロナウイルス抗原定量の値を変更	山口明彦 2024/6/13	鈴木敦 2024/6/13
8	改訂・レビュー	2024/10/2 2	・ SRL の住所変更 ・ 3.1 生化学検査に新規項目追加(CKMB 定量)、項目中止(CKMB) ・ 3.3 内分泌学・腫瘍マーカー・免疫血清学検査に新規項目追加(フェリチン) ・ 3.8.2 容器一覧 (材料別) に検査室への搬送時間への注意事項を追記、嫌気ポーターの採取容器の変更 ・ 9.追加検査の依頼手順の「追加可能時間」に CKMB : 12 時間を追加 ・ 12.2 パニック値の報告について詳細に記載	山口明彦 2024/8/21	鈴木敦 2024/9/27
8	改訂・レビュー	2025/3/4	レビューの結果第 9 版として改訂	山口明彦 2025/2/28	鈴木敦 2025/3/4
9	改訂・レビュー	2025/4/10	・ 表紙より作成者および承認者を削除 ・ 改訂履歴を巻末に移動 ・ 文章をですます調に改訂 ・ 1.検査室の所在地で SRL の名称を変更し、各委託検査室の連絡先を削除 ・ 採血・生理検査の受付時間を 8 : 00 からと記載 ・ 3.8 微生物検査で抗原・ウイルス検査の項目をまとめた ・ 3.10 遺伝子検査の検査項目、融合遺伝子の報告範囲を追記、容器一覧に臨床側の対応について記載 ・ 4.3 遺伝子検査の依頼～検体提出までの流れを詳細に記載 ・ 4.4 生理検査依頼の項目を追加 ・ 6. 検体採取手順を各部署で変更 ・ 7. 搬送手順に生理検査を含めて各部署で追記 ・ 8. 検体受付手順を患者受付手順も含めた ・ 8. 検体受付手順の受付不可基準の見直し	山口明彦 2025/2/28	鈴木敦 2025/3/4

中部国際医療センター	文書名	文書番号	版数
臨床検査技術部	検査案内 (一次サンプル採取マニュアル)	QT-COL-0001	9

			・ 10. 各種申請手続きを 10. 各種申請手続き（患者同意に関する事項）に章名を変更・ 12 パニック値の対象に Ca を追加、血糖（内分泌科外来）を 60mg/dL）に変更 ・ 12.2 の報告のフローを変更 ・ 13.個人情報の保護に関する検査室の方針に引用文献として「個人情報保護規則」を記載		
	改訂・レビュー				
	改訂・レビュー				
	改訂・レビュー				
	改訂・レビュー				
	改訂・レビュー				
	改訂・レビュー				
	改訂・レビュー				
	改訂・レビュー				